

昭和五十三年六月招集

第二回館山市議定会定例会會議録第二号

館山市議會



# 目次

日 時	一
場 所	一
出 席 議 員	一
欠 席 議 員	一
出 席 説 明 員	一
出 席 事 務 局 職 員	一
議 事 日 程	一
開 議	三
行政一般通告質問	二
鈴木 正義君の質問、当局の応答	二
石井 輝久君の質問、当局の応答	四
黒川 平治君の質問、当局の応答	一七
渡辺軍治郎君の質問、当局の応答	二〇
近藤 好雄君の質問、当局の応答	三一
流山源次郎君の質問、当局の応答	三六
辻田 興君の質問、当局の応答	四四
散 会	五五
本日の会議に付した事件	五五

一、昭和五十三年六月二十一日（水曜日）午前十時

一、館山市役所議場

一、出席議員 二十七名

一 番 吉 田 勇 治 郎	二 番 伊 藤 幸 太 郎
三 番 矢 野 寿 夫	四 番 押 元 稔
五 番 黒 川 平 治	六 番 鈴 木 正 義
七 番 本 間 昭 二	八 番 松 下 正 己
九 番 鈴 木 稔	一〇 番 流 山 源 次 郎
一 一 番 近 藤 好 雄	一 二 番 栗 原 一 雄
一 三 番 林 豊	一 四 番 石 井 輝 久
一 五 番 辻 田 実	一 六 番 安 西 益 男
一 七 番 石 井 武 敏	一 八 番 渡 辺 軍 治 郎
一 九 番 渡 辺 昭 夫	二 〇 番 和 田 一 郎
二 一 番 五十嵐 昇	二 二 番 菊 井 敏 博
二 三 番 西 村 真 次	二 四 番 藤 田 益 治
二 五 番 石 井 正	二 六 番 望 月 照 正
二 七 番 山口 康	
三 〇 番 田 中 裕 郎	二 五 番 伊 賀 多 朗
三 一 番 山 口 康	
三 二 番 田 中 裕 郎	
三 三 番 遠 山 目 木 子	

一、出席説明員

第一号に同じ

一、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程（第二号）

昭和五十三年六月二十一日午前十時開議

日程第一 行政一般通告質問

開 議 午前十時三分開議

○議長（吉田勇治郎君） 本日の出席議員数二十五名、これより第二回市議会定例会第二日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行います。

### 行政一般通告質問

○議長（吉田勇治郎君） 日程第一、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の六月十七日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。この際、申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。

発言の方法は最初の発言を二十分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて三十分以内といたします。これより順次発言を願います。

申し上げます。ただいま一七番議員君が欠席でございますので定刻までおいてになりませんので、次の質問者を指名いたします。

六番議員鈴木正義君。

（「がんばれ」と呼ぶ者あり）

（六番議員鈴木正義君登壇）（拍手）

六番（鈴木正義君） 私は、二番目の通告質問をするわけだったんですが、最初にやらさしていただきます。

通告の最初の質問者といまして質問をいたしますが、なにしろ不慣れのため聞きぐるしいところが多々あると思いますが、御了承くださいますようお願いいたします。

私は、左の二点で通告いたしました。その第一点は、水田利用再編事業実施状況についてのことですが、御承知のとおり米の生産過剰により初めて昭和四十五年生産調整が行われ、休耕、稲作転換、養魚池、造林、水田綜合利用、本年度においては水田利用再編対策という名のもとにめまぐるしく変わり、館山市におかれども転作はほぼ目標達成の見通しがついたというふうに聞いております。市当局の方々には御苦労感謝いたします。

生産調整が行われた昨年まで第一次、今年度は第二次というふうに聞いております。昨年までの古米は皆さまご存じのとおり三百六十七万トン、本年度を含むとなんと五百万トンに至るといふようなことのようにです。

いろいろと優遇措置は行われておりますが、これからの農家にとっては不安と焦燥これほど大きな打撃はありません。かつては米の生産にかけては血と汗、苦勞と技術の向上に励み多収に成功したんですが、残念ながら生産過剰のため、やむなく複雑な気持ちで転作に協力しているのが現状です。市当局はそれぞれ各人の希望により特定作物を取りまとめ、計画転作をなされたわけです。

そこで、本年度の転作につき、いままでの露地栽培では生産過剰でとも倒れになると、それではビニールハウスでいこうと施設した農家がたくさんあります。過日、栽培農家より特設施設経営

実態報告書を館山税務署に報告しなさいという連絡があり、早速税務署に行き話を聞き、それぞれ栽培品目につき税をかけますと言われ、それではどのような方法で調査しましたかと聞きましたところ、皆さまが正直に申告なされないから、実は航空写真を撮り一坪のハウスでも写っておりと言われ驚き、税金だからやむを得ないけれども、転作にハウス施設したために課税されてはと、複雑多岐な気持ちにならざるを得ないと。市でもおそらく課税を考えておられることと思いますが、市長さんのお考えをお尋ねいたします。

また、米の消費拡大にはいろいろと苦慮なされておることと存じますが、ぜひとも学校給食への米飯導入を心がけてくださるようお願いいたします。

次は、第二点でございますが、館山海海水浴場の再検討についてお尋ねいたしますというわけですが、質問の内容は少し横にずれておりますが、観光ですので申し上げます。

さて、参考までに過去二カ年間の海水浴客の状況を見ますと、館山に来ましたお客は五十一年度は七十六万六千人余り、消費金額は二十億六千七百万円、五十二年においては大幅にダウン、お客は四十七万二千人、消費金額は十三億六千九百万円余り。この数字は不況と気象状況に左右されたと思われれます。

そこで、夏の海水浴客は大変なにぎわいをいたしますが、夏が終れば海は火の消えたようになり、それでも観光館山かと言われども仕方がないでしょう。

そうして、布沼ボート花摘み園につきましては、入園者が昨年よりも三三%ふえ、地元団地組合、館山市観光課、農水産課、農

協それぞれ協力し、市観光課のPRが行き届いたことは喜ばしい次第ですが、市長さんの五十三年度施政方針の中に、従来一季型観光地であった館山市がよりやく多季型観光地へと脱皮することができ、その内容も次第に定着しつつあると言われておりますが、春、夏はともかくとして、秋、冬の観光客の内容はいかがか。

さて、海水浴場ですが、海岸線の見直しを行われているように思われますが、館山湾は年々汚く汚泥され、これでは海水浴客もだんだん減少しているのが現状ではないでしょうか。市長さんのお考えをお尋ねいたします次第です。

以上、二点について簡単明瞭にお答えのほどをお願いいたします。私の質問を終わります。(拍手)

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) 鈴木正義議員の御質問にお答えをいたします。

質問の第一点は、水田利用再編事業の実施状況について、特に転作物としてハウス栽培を実施したのに、その税の面での優遇はどうかという御質問でございますが、御質問のとおり現在国税庁におきまして航空写真によって全国的に昨年以来行っているものでございますが、これは農業者所得のうち特にハウス栽培についてその基礎となる栽培面積の把握調査ということでございます。

本年度の転作に対する国の奨励補助金は特定作物で反当たり五万五千円、一般作物で四万円が平均となっております。そのほかに奨励補助金以外の措置というものは国では考えていないようでございます。特に税の面で優遇措置を講ずるということは困難な問題だというふうに考えておりますので、そのへんひとつ御理解

をいただきたいと存じます。

第二点は、館山湾内の海水浴場の再検討ということについてでございますが、特に館山湾が汚染をされている。そうしたヘドロの問題をどう考えるかという御質問でございますが、県が海岸砂地の浸食、海水汚濁、ヘドロ対策として国から委託を受けまして実施いたします海岸環境整備事業のために北条海岸を中心としたしまして、その深淺、潮流調査を五十一年度から引き続き実施いたしております。五十三年度も継続をいたしておるわけでございます。でございますので、その結果を見まして、関係漁業協同組合とも協議をしていきたい。そんなふうに考えているところでございます。

以上、答弁を終わります。

○六番（鈴木正義君） 再質問いたします。

ただいま、市長さんの方から課税についてのお話なんです。いろいろな市の方としまして、税金面でございますので、これをはつきりところでどうの、こうのという考えは打ち出せないのが現状であると思えますけれども、しかし農民側といたしましては、切実なる訴えであるというのを踏まえながら、市でもじつくりとそれに取り組んでいただくようにお願いするよりほかはないと、こう私は思いますので、よろしくお願いいたします。

それから、海岸の汚泥されたことなんです。これはいろいろと前からも出ておるわけなんです。要するにあのどろ沼のような海水浴場をどのようにやるか、早急にしかかるか、あるいはまたは今後何とかやらねばいけないかという考えがあると思いますので、その点をひとつはつきりとお聞きくだされば、私もいいじ

やないかと、こういうふうに考えますが、いかがなものでしょうか。

○市長（半沢良一君） ただいまも御答弁申し上げましたように、国の委託を受けまして、県で海岸環境整備事業というものを行いますために調査を行っている段階でございます。これは四十八年からこの調査が始まりまして、五十年には漁業権問題について館山船形漁業協同組合の代表者とも会合し、さらに五十年九月には関係漁協の役員代表と県と市と市との協議いたしまして、県から事業内容等の説明をいたしまして、一応漁業会の関係者の同意を得まして五十一年度から潮流、その他の調査を実施いたしているわけでございます。その結果を待ちまして市としての態度を決めたい。ことは漁業権に関する問題でございますので、十分そういう点を煮詰めた上で実施をいたしたい。御提案のように、憂慮すべき状態が積み重なっていくということは十分私も考えておりますので、その結果を待ちまして対処いたしたい。このように考えております。

○六番（鈴木正義君） ただいま、市長さんの方から漁業権の問題やら、いろいろな複雑化したところの問題さえ解決すれば、昔の鏡ヶ浦になるように考えておられることと存じますので、何とか一刻も早く昔の海岸になるというふうにお願いたします。

私の再質問はこれで終らせていただきます。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、六番議員君の質問を終わります。

次、一四番議員石井輝久君。

（一四番議員石井輝久君登壇）（拍手）

○一四番（石井輝久君） 私は、質問に入ります前に、まず私ども

の先輩の元市議会議員であり、また多年県議会にあって館山市勢の伸展に寄与されてこられた高橋祐二氏の御逝去に当たり、民社党千葉県連並びに安房館山総支部を代表して深甚なる弔慰の誠をささげるものであります。

さて、今次定例会に提案された議案の審議に先立ち、私は次の数点について半沢市長に対して質問いたします。簡明率直なる御答弁をわずらわしいのであります。

質問の第一点は、曲り角にある日本の農政の中における館山市農政、ことに喫緊のこととして当面している水田再編利用計画、つまり稲作転換の指導をどのようになされてきたのか、経過そしてその結果についてまず伺います。

御承知のように、日本の水田の減反は昭和四十五年産米の休耕政策に端を発しているのであります。このことは、ただいまの六番議員の御質問のとおりでございます。市当局は、当時すなわち昭和四十五年三月議会において、私の質問に対して本市の減反目標面積は二百四十四ヘクタールであると答弁しておられる。

ところが、先般の私の質問に対してお答えいただいたのが百六十三ヘクタール、ここに八十一ヘクタールにのぼる誤差が生じたのであります。この明快なる御答弁がいただけなかった。この際、簡明にこの計数上の不可解のなぞを解いていただきたい。かりそめにも議会答弁の数字でございます。こんなでたらめな数字があつていいとは思えないのでございます。

引き続きまして、本論に入ります。旧村別つまり北条地区を初めとして十地区に分けて面積を挙げていただきたい。今年産米の転作を実施した面積、そしてその後どんな作物を栽培したのか。

その作物別実施面積をお示しいただきたい。

さらに、湿田、半湿田、乾田ありでございますが、これらの旧村別面積、またこれに対してどんな作物の栽培を指導されたか、その実施面積をお示しいただきたいのであります。

かつて、安房郡下でミカンの栽培を指導したことは記憶に新しいところでございます。その結果はどうだったでしょうか、惨たんたる状態でございます。ミカンの木は残っていても売れない。立ち腐れ同様であります。こんな指導をされたのでは、農民を農政の被害者と呼ばざるを得ないではありませんか。農政の被害者なのであります。こういうことを再び招いてはならないのであえてここに具体的な面積を伺っておくわけであります。

引き続き、旧村別に集団転作をどのぐらい実施したか、さらにはまた個々転作をどの程度実施したか。これまた旧村別に面積をお示しいただきたい。これは農民にとってきわめて重大な意義を持つ指導なのでございます。

また、転作面積、転作物等の検査をどのようにされるおつもりか、その時期はいつ頃になるのか、伺います。これは雨期の湿田の検査の場合、発芽状態などをどのように見られるのか、重大な関心をよせざるを得ないので、簡明に御説明をいただきたいのであります。

農政の最後であります。半沢市政は農政面で市独自の継ぎ足し補助金を農家のために出してやるお気持はないかを伺って次の質問に移ります。

第二点は、これもかつて質問したことがありますが、城山の裏に定住して居を構える形となっているシラサギとゴイサギが館

山の沼地区や、あるいは北条の上野原、その他周辺の水田の苗をついばんでしまう。また館山湾内のいけすのイワシを食べてしまう。前にも指摘したことがありますが、自然保護との関連でこの駆除が簡単にいかないことは承知しております。しかし狩猟法の改正を求める行動を起こしたことありや否や。また有害鳥獣駆除用の弾丸の代金の県費補助を要望したことありや否やについて伺います。

ヒヨドリの被害もあるのであります。額に汗して働く農民の、また漁民の立場に立って真剣に考えて差し上げなければならぬ深刻な問題の一つと言っても決して過言ではありません。これに対して、どんな駆除対策をお考えになっておられるか、また放置しておかれるのか、あえて再度質問するものであります。

第三点の質問に入ります。市役所の近くでは飯塚薬局の角の交差点と消防署、市役所、税務署から正木のじんかい処理場にかけてのいわゆる昭和通りの朝夕のラッシュ時の交通渋滞は、通り過ぎるのに四十分を要することもあるといわれています。

また、那古の釜屋付近の交差点の近くの渋滞、さらに船形小学校からかぎの手に曲がる国道一二七号線の渋滞は、夏季に向かってますます激化することは論を待ちません。

大軒町の交差点の付近またしかりであります。車は全部排気ガスを出しっ放しです。周辺地区民はいずれも望素酸化物NOXを吸う生活から逃れようとしても逃れられない運命におかれている商店の方たちです。

交通ラッシュ時のこれら指摘した地域におけるNO<sub>2</sub>のPPMはどのぐらいかをまず質問いたします。また国の環境基準値と比

較して、これら地域のNO<sub>2</sub>のPPMはどうなっているか、それを伺います。

館山市は市民憲章にも誇らかにうたっております。「わたくしたちは、この恵まれた郷土を愛し」云々と、この恵まれた郷土とは、憲章の書き出しにある「青い海、あざやかな緑」とうたっておりますが、きれいな空気というのが原題に含まれているのは申すに及びません。空気の汚染、公害の発生に至ってはまさに市民憲章にもとると断ぜざるを得なくなってしまうのであります。この点に関する御所見を伺います。まあ、憲章は憲章としてともかく、大気汚染公害に関して具体的にお答えをいただきたいのであります。

第四点は、前の質問の関連でもありますが、指摘した地区のNO<sub>x</sub>汚染と交通渋滞とを一刻も早く緩和するためには、何としても早急にバイパスの建設を促進する以外に道はないと思うのであります。

かつて、建設促進の請願が出されました。また路線変更の強い請願も出されました。そしていま予定路線にはバイパス建設反対といういった立て看板が立てられております。少なくとも私も議会の建設委員がことの重大性にかんがみ現地をつぶさに視察した当時、こういった立て看板は見られなかった。市当局は手をこまねいて傍観しているのでありましょうか、この点とくにお考えをお聞かせ願いたい。

また、ことの深刻さを交通問題だけでとらえるのではなく、私が指摘いたしましたとおり、これは空気汚染、公害につながり人命にかかわる重大な問題として真剣に考へべきであると思うの



であります。NO2による肺気腫、気管支炎、その他の公害が発生しないという保証は全くありません。

一体、パイパス建設の現況はどうなっているのか、また今後の見通しはどうなっているのか、明確にお答えをいただきたいのであります。今年になって市は建設省千葉国道事務所当局といつ、いつ接触されたのか、これも合わせて具体的に何っておきます。

第五点であります、国電内房線の複線化促進運動について伺います。

館山は、観光を一つの柱としていながら、まず陸路はただいま第三点、第四点の質問で指摘しましたとおり、惨たんたる交通状態であります。さらに観光シーズンにおける国道一二七号線の渋滞はまさに言語に絶するものがあります。だからこそ、一つはパイパスをどうしても促進しなければならぬ。これは言を待つまでもありません。しからは鉄道事情はどうか、依然として君津駅からこちら千倉駅までの間、単線です。観光館山などと言えらるであります。これは陸の孤島に等しい。

聞けば、郡内の町村長が一致して運動に乗り出すといいますが、まことに時宜を得ていると御同慶にたえません。しかしあえて申し上げるならば、遅きに失するの感を免れません。今後の促進運動の展開の方法とその見通しについて何って、第七番目の質問に移ります。

次は、固定資産評価額を市民に公にするおつもりはないかについて質問します。

日本におきましては、税のイメージが非常に暗く、陰湿な感すら抱かれています。税のイメージが非常に暗く、陰湿な感すら抱かれています。これは遠く大和朝廷から

律令国家に移行するに当たって、過酷な課税を当時は百姓と称していたと言われて、いわゆる国民に対して、言葉をかえれば一般市民に対して苛酷請求を加えた。それが江戸時代を経て明治政府から今日まで権力機構としての国家から都道府県、都道府県から市町村へ、このように上意が下達されて今日に及んだことはいない事実であります。

でありますから、課税客体である末端市民は、たとえば山林、田畑等の面積は実面積より過小である例は枚挙にいとまがないではありません。いわゆる縄延びであります。過酷な課税から脱出しようとする、いわゆる市民の生活の知恵とでも申しまいりか、とにかく市民の共通した感情として、自分だけが不当に高い税額ではないかという不安感、課税する側に対する不信感を抱いているのであります。

この共通した陰湿な心理を何とかして緩和する方法はなかるうかと憂うのであります。その一つの方法は、市の行政が決して権力機構の中に組み込まれた末端機関ではなく、市民のための機関、市民の暮らしを守ってやる機関、要するにサービス機関としての窓口行政であることを事実をもって市民に示すことであると言えます。

そこで、現行の固定資産評価額の公表についてであります。あなたの付近は大体このぐらいですと評価額を公表して差し上げることにはたらいかがなものでありまいしょうか。

国は市内五カ所を公示地として指定して明らかにしている。県は市内の五カ所を標準地別として県報に明らかにしている。

市だけは明らかにしてない。

これではサービスにおいて国より、また県より劣っていると

言えないでしょうか。何はともあれ市民感情の上に立って税に対する不信任感、不安感を一掃するため、合わせて税の公平、公正を市民に公明正大にうたって、積極的に協力する意欲を高揚させる目的を兼ねて公表されるべきであらうと思っておりますが、市長の御混解を伺います。

最後の質問は、公文書に用いる敬称を殿から様に変更する考えはないかについて質問します。

現在まで全国で殿から様に敬称を改めたのは、まず愛知県をもって嚆矢とし、次いで千葉県の二県だけであるように伺っております。どちらも革新知事ではありません。しかし千葉県にあっては二月二十七日付で総務部長名をもって、今年四月一日以降従来慣用されてきた殿を用いず、すべて様に統一するので遺憾なきよう扱ってもらいたいという通達を各出先機関に至るまで出しております。警察本部におきましても同一步調をとっていると聞きます。

そこで、伺います。昭和二十七年に国語審議会で文部大臣にこの点答申していると思いますが、御承知かどうか。また銀行預金等は敬称をどう扱っているか。また郵便貯金は現在どうなっているか、細かいことで恐縮ですが、お答えをいただきたいのであります。

殿から様に変わったらどんなさま変わりがありませんか。これは実質的には何らの変更を伴うものではありません。しかしながら、大体がいまから百年前の明治元年の太政官布告以来の官尊民卑の思想が依然として残るかすとして慣行されているという言い方もできるであります。

市長は、研究御熱心で、また博識多才でもありますので、いさら広辞苑をお引きいただくまでもなく、ご存じでございます。うが、殿よりも様の方が敬称の意が強いとされております。

もっとも、陸軍の体験をお持ちの方々は、かつて上官に殿の敬称を用いたことを御記憶でありましょうが、それはそれとしてすでに過去のものとなって三十四年間も経過してしまいました。今日の、民主主義的な考え方からの市役所という役所が市民に対してさま変わりするその御用意はないものか。御所見を伺って質問を終わります。御答弁によりまして再質問申し上げます。

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) 石井輝久議員の御質問にお答えをいたします。

質問の大きな第一点は、市農政の喫緊事と思われる水稻の転作指導の経過並びに結果についての御質問でございますが、小さな第一点は、四十五年度三月議会における答弁面積の不可思議についてということでございますが、この問題につきましては、昭和四十五年三月議会で答弁をいたしました米の生産調整目標面積の相違につきましては、現在保管しております資料では判明をいたしませんので、大変遺憾なことでございますけれども、そういうことで御了承をいただきたいと思っております。

小さな第二点、今年度の転作面積と作物別面積、乾田、半湿田、湿田面積等これが転作面積をそれぞれ旧村別にどのように実施したかについてでございますが、これは細かい数字の説明になりますので、恐縮でございますが、担当部長に説明をさせていただきます。と思いますので、御了承いただきたいと存じます。

小さな第三点、集団転作、個々転作の旧村別面積についての御質問でございますが、当局の場合集団転作についてはございません。

個々の転作面積につきまして申し上げますと、館山が十二万三千七十七平方メートル、北条が十四万七千三百二十九平方メートル、那古が三十四万一千二百三十三平方メートル、船形が二万一千五百五十六平方メートル、西岬が九万五千二百三十三平方メートル、神戸が三十六万七千七百七十七平方メートル、豊房が神余を含めまして二十九万四千三百三十七平方メートル、館野が六十二万五千二百五十平方メートル、九重が五十二万四千九百三十三平方メートルでございます。

なお、館野と九重につきましては、土地改良通年施行分が館野地区で十五万六千八百四十一平方メートル、九重が十一万一千二百十四平方メートルあるわけでございます。

それから、検査の時期と方法についてでございますが、転作の現地確認の時期は七月中旬から七月下旬にかけてまして、各農業協力員にお願いをいたしまして実施する予定でございます。また、一筆のうちで一部転作されるものにつきましては、市職員によりまして実測を行い確認をいたします。

質問の小さな第五点、市独自の継ぎ足し補助如何という御質問でございますが、現在市独自の転作促進関連事業につきまして検討中でございます。検討項目は第一点が水田再編対策転作営農組織育成に対する助成、第二点が転作水田現地確認事務委託料の増額、第三点が奨励補助金の上乗せ、第四点が農業企画研究会の設立、第五点が水田利用再編対策事業利子補給制度、この五点につ

いて検討をいたす予定でございます。

質問の大きな第二点、有害鳥獣の駆除対策についての御質問でございますが、鳥獣が農作物に大きな被害を与えた場合には、生産団体からの申請を待ちまして、その都度県と協議し、鳥獣捕獲許可をいただきまして駆除に当たっておるわけでございます。現在では目立った被害はなく、生産団体からの駆除の申請も出ておらない状況でございます。

質問の大きな第三点、市内交通網の渋滞による自動車排ガスNO<sub>x</sub>汚染と公害についての御質問でございますが、その小さな第一点は、交通渋滞地域のNO<sub>2</sub>の値はどのぐらいか。その第二点は、その値は国の環境基準と比較してどうだろうかという御質問でございますが、当局には自動車排ガス測定局がございませんので、継続的なデータはございませんが、過去二回教力所において測定したところによりますと、御指摘の地域内では船形小学校前で〇・〇一三から〇・〇一八PPM、銀座通りで〇・〇三から〇・〇三九PPMという値が検出されております。

NO<sub>2</sub>につきましては、国で定めた環境基準値は一日平均〇・〇二PPM以下となっておりますけれども、環境基準というのは地域全般の環境を守るための目安でありますので、交通排ガス規制値を直ちにこれと比較評価するということはできないわけでございます。

望素酸化物は物の燃焼によって生ずるものでございますし、自動車の排ガス中にも含まれていることは明らかでございますから交通渋滞を生ずれば当然排出量も多くなり、大気汚染にも影響のあることは考えられます。ただ、館山市に設置されております測

定局によりますと、県下の中では最もいい数値が出ているわけでございます。

質問の大きな第四点は、交通緩和のためのバイパス促進の現況と見通しについてということでございます。

建設省千葉国道事務所におきましては、国道一二七号線館山バイパス建設に必要な種々の調査を行ってまいりましたが、昨年度実施いたしました環境インパクト調査を最後に建設に当たる調査を完了いたしましたして、現在総合評価を検討し、基本計画を作成中でございます。

しかしながら、富浦町では二、三の地権者の了解が得られず、測量ができない状態にあります。これが解消には国が直接交渉を行い、本年度中に測量を完了し、館山バイパスの全体基本計画書の作成に努力しているところでございます。これが作成されますと道路設計ができ、用地測量さらに幅員の設置を行うこととなります。

御承知のように、これを遂行していく上におきましては、地区住民の理解と協力を得なければなりません。また現在、国及び県の道路網整備事業は東京湾横断道路建設計画、東関東自動車道建設計画等を計画し、道路建設事業は厳しい情勢下にあるのが実情でございます。この早期実現は地域住民はもとより、皆さんの御協力のもとに関係機関への陳情を重ねなければ早期実現は困難と思考されますので、今後とも御協力のほどをお願いする次第でございます。

今年になりました、市いたしましたしては、千葉国道事務所当局といつ接触されたかという御質問でございますが、三月十日に千

葉国道事務所を訪問いたしましたしていろいろ打ち合わせをいたしました。四月二十七日には国道事務所の調査課長、用地課長が市に来庁いたしましたして、五十三年度事業目標、予算について打ち合わせを行いました。その内容については先ほど申し上げましたとおりでございます。

なお昨日、内房線の複線化の陳情に合わせまして、国道一二七号線バイパス早期実現の陳情と、さらにその中で特に館山バイパス、鋸南バイパス早期実現の陳情を合わせて県知事、県の土木部長さらに千葉国道事務所長に陳情をいたしました。建設省の関東建設局へは議会の終了次第陳情に行く予定になっております。

質問の大きな第五点、内房線の君津駅以南千倉駅に至る複線化運動の促進についてという御質問でございますが、内房線の複線化促進につきましては、館山市が主唱をいたしまして、内房沿線の関係市町村長が一体となって、県を中心とした組織化を図りまして関係機関へ積極的に運動を展開しようとしているところでございます。昨日、知事に面会をいたしましたして要請をいたしてまいりました。現在のところ六月下旬に関係市町村の担当課長会議を開きまして、七月中に知事を会長といたしまして、内房線複線化の期成同盟を設立発足する予定でございます。

質問の大きな第六点、固定資産評価額の公表についての御質問でございますが、税に対する市民の心理といたしましては、確かに御指摘の面も多分にございますけれども、固定資産税の評価額を公表いたしますことは、個人の財産を第三者に知らしむる結果になるわけでございますして、地方税法第二十二条の秘密漏洩といふことに該当いたしますので、公表することは差し控えるべきだ

というふうに考えております。

質問の大きな第七点、市の公文書に用いる敬称を殿から様に変える意思はないかという御質問でございますが、御指摘のように県では昭和五十三年四月一日から公文書に用いる敬称を従来の殿から様に変更する旨県から通知がございました。

市におきましても、県の実施方法に準じまして昭和五十三年四月一日から一般公文書、徴税関係等に殿から様へ変更実施をいたしております。ただ、国や県への文書で規定されているものと、市の帳票ですてに印刷してあるものはそのまま使用し、新たに印刷をする時点で様に変更することになっているわけでございます。

以上、答弁を終わります。

〇経済部長（太田博雄君） 石井議員の大きな第一点の二番目の数字の点で申し上げます。

今年度の転作面積でございますが、これは目標面積二百二十六・八ヘクタールに対しまして、計画面積が二百五十四ヘクタールでございます。

それから、同じく作物別面積でございますが、飼料作物で二十万六千六百四十五平米、大豆、その他で四十二万五千七十五平米、一般野菜で四十八万八千三百四十四平米、一般作物これは主として豆類でございますこれが五万五千四百七十七平米、花十三万三千五百九十五平米、造林一万二千七百六十平米、養魚池九百七十平米、それと管理転作十七万九千八百四十八平米、土地改良通年施行面積が二十六万八千五百五十五平米、合計で二百五十四ヘクタールでございます。

次の乾田、半湿田、湿田面積でございますが、館山市におき

ましては五十一年の四月現在千葉県農業試験場の地力保全基本調査の結果で、湿田が千二百九十ヘクタール、半湿田六百三十五ヘクタール、乾田二百一十ヘクタールとなっておりますが、その後の地区別の面積等につきましては、調査の結果がございませんので、御了承願いたいと思います。

次に、転作面積をそれぞれ旧村別にといいことでございますが湿田におきまして館山が三万三千五百平米、北条五万八千五百七十二平米、那古一万九千六百六十五平米、船形六千三百一十一平米、西岬四千二百七十平米、神戸十一万二千九百四十四平米、豊房五万二千二百四十七平米、館野五万四千七百二十三平米、九重十一万二千三百四十五平米、湿田合計が四十五万一千二百二平米でございます。

次に、半湿田でございます。館山八万四千九百二十平米、北条八万八千七百五十七平米、那古三十二万五千五百平米、船形一万五千二百五十五平米、西岬八万八千八百十五平米、神戸二十四万一千七百四十八平米、豊房二十三万三千三百六十六平米、館野四十万八千八百六十六平米、九重二十九万七百五十七平米、半湿田が百七十六万九千八百六十四平米でございます。

次に、乾田を申し上げます。館山八千二百二十二平米、北条ゼロでございます。那古千三十八平米、船形ゼロ、西岬二千四百四十八平米、神戸一万三千七十八平米、豊房一万一千五百八十四平米、館野四千八百八十平米、九重一万六百七十七平米、乾田の計五万四千六百六十七平米でございます。

以上でございます。

（「それで終了ですか」との声あり）

〇一四番（石井輝久君） 順次再質問いたします。

最初の質問でございますが、昭和四十五年三月の議会の会議録で確かに二百四十四ヘクタール、トン数にして九百五十一トンこれは市側の答弁、国は百万トンである。こういう御答弁をいただいております。その後の答弁で若干のあれがございしますが、これはひととスタート時ですから、日本の農政の減反政策の始まった初年度、基本年度ですから、二百四十四ヘクタール、九百五十一トンというのがその後スタート時において違っていたとするならば計数的にこの際、市長の答弁で保管している資料がないというからこの程度で御了承願いたいというんですが、それならそれでいいんですよ。百六十三から出発したんであるということをごの際明確に会議録に残しておいていただきたい。そうすれば問題なくなるんです。打ち消しておけば。それが一つ。

それから、ただいま部長の答弁でお座りになっちゃったから、これで終りかなというふうに私は私語をしたんですが、実は私は質問の仕方が悪かったかもしれないけれども、転作面積、乾田面積はずっと言われた。それから市長も集団転作と個々転作ずっと数字を挙げられました。共通して言えることは、私は旧村別十地区について御説明を承りたいと言ったんですが、富崎は共通して抜けているわけです。九地区しかない。共通して言っていないわけです。富崎は脱漏しているわけです。それはそれでいいでしょう。どっかに含まれているでしょうから。

しかし、まず整理して言いますが、乾田面積の中で、たとえば乾田は館山で八千二百二十二平米あったと、私はこの乾田に対してどういう転作の指導をされたか。飼料作物はこれこれだ。豆はこ

れこれだ。麦はこれこれだ。面積別に挙げていただきたい。このように申し上げた。私は正直に詳細にこういう御質問ですとこういうことを通告して、この文書だけではなくて、ちゃんというふうな内容ですとということとは口答でも御通告申し上げてあったわけですが、飼料作物はこれこれ、いま申し上げたのは乾田。それから半湿田、たとえば館山地区は八万四千九百二十平米あった。その内訳として飼料作物は何平米、豆は何平米であります。麦は何平米であります。その他は何平米であります。こういう御答弁をいただきたいと思ったわけです。

湿田においてしかり。湿田は北条が五万八千五百七十二平米この転作の内訳なんです。飼料はどれどれです。豆は幾らです。麦は幾らです。これが政府がいうこの三つが転作の指導作物、以下花とか先ほども部長の答弁にもありましたけれども、野菜、花、造林、養魚等々その他で農林省の指導の転作の中に入っていないんです。したがって農林省が出す補償の額がうんと違うわけなんです。だから、私はあえて具体的に御質問を申し上げたいと言ったわけなんです。これはこういった指導が末端まで行き届いているか、行き届いてないか、それによって農民はえらい違いがあるんです。再質問であれですけれども、この点資料がなければいけません。うががないんですけれども、ちょっと時間を食いますな。とにかくそういう質問をしたんですが、これは御答弁としては不満足に思っております。答弁がいただけない。再質問の時間が限られておりますから、あとどうしましょうか、経済建設委員会はのちにございましょうから、協議会でもお伺いをいたしましょうか。この点は発言するにとどめておこうかとも思いますが。

そこで、先ほど市長の御答弁にありました集団転作館山市内ゼロ、個々転作館山以下、富崎が抜けていますけれども、九重まで御説明いただきました。それから土地改良の館野、九重この御説明もいただきました。

しかし、ご存じでしょうが、なぜこれと言ったか、二万円の差があるわけです。集団転作をしないという指導をすれば反当二万円違ひがあるんです。個々転作では二万円農民はそれだけ損なんです。だから、集団転作の指導を末端までかゆいところに手が届くようにやったのかという判定の基礎として私は御質問したんですが、残念ながら館山市は集団転作ゼロ、私は全く愕然としてるんです。ちょっとした指導で、あぜが一つ、二つまたがった転作をしないという指導をすることによって反当二万円の違ひがある。農家は反当二万円それだけもうかるその指導によって。

個々転作ではみすみす二万円損をするという言い方は不適當かもしれないが、もし集団転作の指導をすれば二万円多くもらえると、それを申し上げたかったわけでございます。これ大変大きい問題として私は指摘しておきます。残念でたまりません。ただいまの点は御所見を承りたい。

それから、質問に対する的確な答弁を得られないということは遺憾でございますが、これは別の機会に御質問をとくといいたしたいと思います。

それからもう一つ、再質問の幾つか目として、飼料作物でどのような御指導をされたか、飼料作物これはまた非常に大きい意味を持っているわけです。湿田に対して、あるいは半湿田に対してあるいは乾田に対して、あんなのところはこういう飼料を植えない

さいよという具体的にどういう御指導をなさったか。レッドクローバーを植えないさい。あなたは半湿田だからレッドクローバー、あなたは乾田だからホワイトクローバー、あなたのところはソルゴ、こういった具体的にどういう御指導をなさったのか。あなたのところはオーチャード具体的にこれは質問します。

それから次に移ります。ただいま市長の御答弁でいろいろの継ぎ足し補助金検討中だということでございますので、これはひとつ本当に汗して働いている百姓が水田つくりたくても再編利用で転作しろという指導を受けているわけです。やむなく転作するんですから、それに対する上乗せ補助とか検討中でございます。それから、そのほか五項目にわたってあるそうですから、せっかく御検討いただきました。ぜひ実施をしていただきたいと要望しておきます。

次の第二点目ですが、これは前にも言ったんですが、いま市長の御答弁で目立った被害がなくて団体から申請が出てないという話ですが、私はいま質問したのは狩猟法改正を求める運動を起したことがあるのかどうか。それから弾丸の県費補助を県に要望したことがあるのかどうか。それからどんな駆除対策を考えているのか。放置しておこうとするのか。いまの御答弁ですと、目立った被害がないから放置しておこうと、このように理解してよろしいのかどうか。全然私の質問に答えておられない。狩猟法の問題弾丸の県費補助、どんな駆除対策を考えているのか、あるいは考えてないのか、放置しておくのか。この点お答えになっておられないので再度お答えを願いたいと思います。

三番目でございますが、これは挙げられたPPMで船形小付近

それから六軒町〇・〇三から、船形小付近で〇・〇一三PPMと館山市として測定局がないのは承知しておりますが、これは日量で計られたのか、あるいはある時間、バーアワー、そうして計った時期はいつなのか、測定年月日、それからいま挙げられましたPPMはバーディなのか、バーアワーなのか。それからどこが測定されたのか。いま頃の時間帯を飯塚薬局の角で計ってもおそらく〇・〇一かそこらでしょう。私が言っているのはラッシュ時に計らなければ、県下でも非常にきれいだというけれども、それはきれいですよ。一日じゅうの時間帯のあいた時期に計ればきれいなわけですよ。そんなことはわかっているんです。交通ラッシュ時、さっき言ったように四十分間も渋滞してとまっている。そのとき吹かしっ放し、そのときのPPMを計らなければ何にもならない。その周辺の住民はその間NO2を吸っているんですから、これは重大問題ですよ。測定年月日はいつだったのか。もう一つそれが測定したのか、測定者。いま挙げましたった二カ所ですけれども、それはバーアワーなのか、バーディなのか。それをお答えいただきたい。バーアワーの場合は何時から何時までか、お答えをいただきたい。

それから、国の環境基準値等の比較ですが、これは国の環境基準に關しましては802の場合〇・〇四これは日量ですが、大体合意を得ておる。それからNO2の場合は〇・〇二の環境基準値を設定したけれども、その後これについては財界等とのいろいろ問題がありまして、目下検討中であることは承知しています。〇・〇二が〇・〇四の間を動揺していることは事実でございますけれども、それはそれとしてよろしうございますけれども、県

下で最もいい数値が出ているという市長の御答弁ですけれども、試みに、なるほど数値で見ますと、六軒町の交差点で〇・〇三から〇・〇三九これはバーディか、バーアワーか、何時から何時までか知りませんが、この数値でも決していい数値とは言えません。NO2の場合、決していい数値とは言えないということ申し添えて再質問。

それから、パイパスでございますが、これはちょうどタイミングよく六月二十日、きのう陳情をされたということでございます。これは喜びに、御同慶にたえないわけでございますが、とにかくこれはかつて路線変更の強い請願もなされましたけれども、その後の建設省等との感觸によりますと、大幅な路線の変更は不可能である。微変更にとどまるということでありますから、それはとにかく、それはそれとして、強力な促進をしていくように要望いたしまして、この点に關します質問はこれで打ち切ります。

国電の内房線でございますが、これは先ほどの御答弁ですと組織化を図っておられる。そして六月下旬に關係市町村と期成同盟をおつくりになる。關係市町村というのは千倉から君津駅の手前ですか、とするとどこですか。君津まで複線ができていますから、關係市町村とはどこか。簡単なことですが、これは事務的なことですが、期成同盟に加わる關係市町村とはどこか。この御説明がなかったの、これは再質問いたします。

固定資産の評価額でございます。これは個人の財産を第三者に知らしめてはいけないという地方税法第二十二条に規定されておることは承知しております。しかし、国はとにかく三カ所館山市内で公示地をきめている。県は五カ所標準地をきめて県報に公表



している。私が言っているのは、固定資産台帳を一般に公開しろと言っているんじゃないんですよ。そういう意味ではないんですよ。第三者に知らしめるという、そういうどこ何番地のどれそのあれを公表しろというんではなくて、再質問いたしますけれども、市内でたしかこと、こと、ことというふうに定めて固定資産の評価額を標準地として出しているはずですけども、その点ごく事務的で結構ですから、市内の、つまり国の公示地は三カ所、県の標準地が五カ所、それに対してどういう基準で評価をしているか、それは再質問で、お答えをいただきたいと思ひます。

私が言っているのは、地方税法二十二条に抵触するようなことを公表しろなんていうようなことは一向言っていない。固定資産の評価額のことですから、言われているのは土地台帳なんかにことに関連する御答弁です。これは再質問いたします。

最後の公文書これはうっかりしました。四月一日以後実施しておられるそうですけれども、私は質問で昭和二十七年の国語審議会の文部大臣への答申を御承知かどうか、郵便貯金はどうなっているかということに対する御答弁がなかったんで、答弁漏れとして再質問いたします。以上。

○経済部長（太田博雄君）

再質問についてお答え申し上げます。

第一点の先ほど石井議員さんが集団転作につきまして、市長の方からございませんという回答をいたしたわけでございますが、これは現在の転作の中にはこの制度上にも、要綱上にもないわけでございまして、これにかわるべきものと申しましようか、これをさらにいままでの集団転作よりも一歩前進いたしました制度の

中で計画転作というものが今回認められることになったわけでございます。このいままでと違いました集団以上のものと言われますことは大字あるいは市町村単位で、過去の言葉で申し上げれば集団と言ってもよろしいかもしれませんが、そういった形の中で認められますのが、先ほど石井議員さんが申されました二万円からの上乗せということになるわけでございます。

それから、市内十地区と申し上げた中で、富崎が入っていないこととございますが、富崎には水田がございませんので該当外になっております。

それから、飼料作物の指導という点でございますけれども、これは青刈り稲は当然湿田でございます。そのほか、あと半湿田等につきましては、市と農業改良普及所、館山市農業協同組合と合作をいたしまして、水田利用再編対策転作物の栽培指針というものを印刷いたしました。各農家に配布したわけでございます。

この資料に基づきまして、各生産者自体がいろいろお考えの上で飼料作物を施したものと私たちは考えておるわけでございます。鳥獣の件でございますけれども、狩猟法の改正を求める行動を起したことがあるかということにつきましては、これはございません。

また、有害鳥獣の駆除のための弾丸の補助金を県に申し入れたことがあるかということにつきましても、これもございません。それから、このまま放置しておくのかということでございますけれども、御承知のことと思ひますけれども、有害鳥獣の駆除につきましましては、実害を受けました農家から生産団体、農協長宛に有害鳥獣駆除申請書というものが提出されるわけでございます。

それから、農協長から市長を経由いたして県に出すわけでございますけれども、その際市では副申書をつけるわけでございます。現在のところ、先ほど市長が申し上げましたとおり、農家からの申し入れがございませんので、現在は実施はしておりません。

一番最初の質問の転作面積の違いでございますけれども、四十五年の議事録を私たちもその後ずっとどういう数字であったかということを検討してまいったわけでございます。確かに四十五年三月に石井議員さんの国の農政の転換に応じた館山市の米の生産調整の推進の方向ということで、御質問の中で確かに先ほど申し上げましたような数字が示されておったわけでございます。その後、県の方へも問い合わせいたしましたけれども、県では四十八年以前のは全部焼却してわからないということでございますので、ひとつ先ほど市長から申し上げましたとおり、百六十二というところでスタートしたいということでございます。

（「訂正」との声あり）

はい、お願いしたいと思います。

○民生部長（石井 謙君） 自動車の排気ガスの測定結果につきまして申し上げます。

四十九年三月十九日、五十年の二月十七日の二回行ってあります。この調査は約二十分間の平均の濃度を調査いたします。調査をいたしました測定者は市の公害係を中心にいたしました。

○議長（吉田勇治郎君） 答弁、要点、簡便に願います。

○市長公室長（汐崎政光君） 内房線複線化同盟の構成メンバーでございますが、これはいまのところ想定されておりますのは千葉市原から和田浦までの各市町村長でございます。

それから、敬称に關します国語審議会の建議の件でございますが、これは昭和二十七年当時国語審議会の会長をやっておられた土岐善麿氏から、昭和二十七年当時敬語の使い方については、将来公文書の殿を様にするのが望ましい。このような建議がなされております。

それから、銀行、郵便局等の敬称使用の実態でございますけれども、千葉銀にありましては個人宛は様でございますが、会社、その他団体それらについては殿または御中このような使用がされております。それから千葉興銀これも個人宛は様、その他は御中ないしは殿。それから太陽神戸銀行これも個人宛は様。郵便局にありましては部外は様、部内は殿。農協等にありましては一般的には殿の利用がなされております。

○総務部長（鈴木弘道君） 固定資産の評価に關しましてお答えをいたします。

先ほど、御指摘がございましたように、市内に三カ所、県の關係で五カ所というのがございますけれども、これは国が表示しておりますのは、地価公示法に基づきまして公示するわけでございまして、その目的がいわゆる一般の土地取引に対しての指標を与えるということ、公共の利益となる公共事業に対する適正な補償の額を算定する根拠として公表しているわけでございます。

そういうような關係でございまして、固定資産の評価基準地の市の固定資産の評価の標準地等の關係でございすけれども、現在土地評価を行いますのに路線価方式と比準評価方式がございまして、路線価の標準地は市内四百三十カ所、比準評価地区の標準地が百四十一カ所、合計五百七十一カ所でございます。ただ、こ

の路線価等の価額につきましては、一応固定資産の課税の評価のための資料でございますので、一般には公表すべきものではないというふうに考えております。

〔議長、一四番との声あり〕

○議長（吉田勇治郎君） 答弁中。

〔「答弁を求めないんですから、いいです」との声あり〕

○総務部長（鈴木弘道君） これで、終了です。

○一四番（石井輝久君） 時間がなくなつたんで、三十分ですからこれで打ち切りますが、四百三十カ所と百四十一カ所の、

○議長（吉田勇治郎君） 申し合わせの時間でございますので、発言を御遠慮願います。

○一四番（石井輝久君） 別の機会に、これをもって打ち切ります。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、一四番議員君の質問を終わります。

次、五番議員黒川平治君。

○五番（黒川平治君） 私は、今回通告申し上げますのは次の諸点でございます。

（五番議員黒川平治君登壇）（拍手）

質問の第一点は、農村地帯の道路、排水整備の促進でございますが、すでに前回も同じような面で通告を申し上げたのでございます。三カ月たった今日依然整備どころか道路の真ん中は堀ができて、路肩がくずれ落ち、道路と堀の区分すらつかないところがございます。かねて申請して予算化されている道路もそのまゝの状態、ひと雨降るごとに補修工事は大きくなり、住民の生活に支障を来しております。

ある個所は、排水路の兩岸がくずれ落ちて道路のなくなつてい

るところもございます。排水路の場合は資材だけ出してくだされば、地元の職人が奉仕的に無料奉仕すると申し上げているにもかかわらず、建設に行けば農水の関係、農水課に行けば建設の関係、お互いに予算の出し惜しみをしておるような現状でございます。これは一体どちらの方でやるものか、お尋ねをいたします。また職人の気の変わらないうちに早急にやって、排水溝資材を出していただきたいのですが、ひとつその時期をお示し願います。

また、市道についても舗装はしてあるものの、交通量が激しく路面がくぼみ、水がたまり雨降りのときなどは通学の子供が困っております。車が来たときなどは水たまりから逃げようとしてこる子供もおります。早速現地を見て整備するようお願い申し上げます。

これが私の質問の一点でございますが、あえて通告までしなくてもこれぐらいのことはできるだろうと皆さん思っておりますかもしれないが、やはり通告を通じ皆さんの前でつきりと伺いをするのが一つのこれは確約と申しましょうか、そういうような面で申し上げたのでございます。

質問の第二点は、酪農公害対策でございます。これは前回違う面で、私は同じようなことを申し上げたのでございますが、御当局の深い御理解を求めるために今回も通告申し上げた次第でございます。

いろいろとむずかしい農政の中で、安定した農業の振興を図ることは一層むずかしいことと思えます。しかし、農業は館山市の重要な政策課題でなければならないと思えます。幅広い農業経営

の中で、酪農は館山市の主要農業の一つだと考えております。

この酪農を振興させるには、まず公害対策に取り組まなければなりません。安定した酪農経営の振興、奨励も全く公害対策をしなければできないのでございます。

その公害を最小限度にとどめる対策、方法の一つとして、私は手さぐりで四十数年の間、酪農にたずさわってまいりましたが、まずこの体験がコロンブスの卵的のようなものであるかどうか、それは私の得た生活の知恵から出たものでございます。

それは、人間のふんに牛の尿をまぜると発酵、分解が非常によくなり早期分解するのでにおいが長く残らない。においが少なくなる。そういうような実際がございします。早期分解するのは、はつきりと、私は専門家でございしませんですけれども、バクテリアの働きによって分解するので、そのバクテリアの繁殖に必要なのは窒素だそうでございします。その窒素は牛の小便は人ぶんよりはるかに多く、またその上、人間の場合は外で小便の用を足す方が多く、家で用を足すのはおそらく大便が多く、し尿槽で攪拌分解では完全に分解できない。においも大変出てくると。

そこで、酪農で困っているのは、まず牛の小便でございします。ふんは乾燥化、畑に運搬処理できますが、小便は取り扱いがめんどうで重い上、なかなか労力を必要とするものでございします。現在の場合はおそらく浸透式か、漏水式になりがちでございします。

そこで、投入槽をつくって人ぶんと牛の小便を混合して貯留槽をつくったら、分解が早くて私は大変よろしいのではないかと。一べん入れたものを攪拌槽に入れてる過槽に移す。牛の小便は酪農家が本当に処置に困っているものでございします。大半の公害はま

ずこれらが多いと思います。

そこで、市でバキュームカーを買って酪農家に貸し付ける。あるいは農家を買った場合にはこれを全額補助か、大変虫のいい話でございします。そういう面のまず補助をしていただきたい。こういうような行政的な指導をお願いするものでございします。

結果的には、この効果が本当によければ、これは一石二鳥と考えます。そこでまず、人畜し尿の処理場の併設を申し上げたのでございします。大変はつきりした科学的な実証はつかんでおりませんので、これは私のあるいは行き過ぎかもしれませんが、もしこれができれば大変私はよろしい。酪農奨励する面で大変大きな面が出てくると私は考えて、ここに御通告申し上げたのでございします。

以上、終らせていただきます。

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) 黒川議員の御質問にお答えをいたします。

農村地帯の道路、雑排水路の整備促進についてという質問でございします。農村にございします道路は一体担当課はどこかという御質問でございましたが、その道路が市道になってるか、農道になってるかによって違うわけでございします。それぞれ市道の場合は建設課でございしますし、農道の場合だったら農水産課でございします。

この整備につきましては従来もやってまいりましたし、今後もやってまいるつもりでございします。本年度事業で、農村地帯におきましては道路改良舗装を十九カ所、排水路を二カ所実施する予定でございしますし、また原材料の御要望がございしますれば、支給

も考えておりますし、また共同施行等によってもお願いをいたしているわけでございます。

第二点の酪農公害についてでございますが、ちょっと御質問の意味がよく理解できなかったんですが、牛の尿を人間の尿処理場の中に運んでしまえと、一緒に処理しろという御趣旨でございましたら、これはちょっと不可能なことでございますので、人間の尿は一般廃棄物で市町村が処理責任を負うことになっておりますし、畜産農業にかかわる動物のふん尿は、これは産業廃棄物でございまして、この処理は経営者が処理することになっております。これを一緒にした施設というのはちょっと考えられないわけでございます。

そういう意味ではなくて、農家が個々の御自分のところのふん尿と牛の尿とをまとめてそれを再利用すると、そういう意味でございましたら、本年度畜産公害対策事業として畑地区でダンブトレイラー、尿ポンプ等の購入を予定しておりますけれども、今後酪農家と協議の上で、地域単位で対策事業の導入を図るよう努めていきたい。また農業近代化資金の活用も進めていきたい。こんなふうに考えているところでございます。

以上、答弁を終わります。

○五番（黒川平治君） たいはい。第一点でございますが、市長さんの農水課、建設課それはよくわかるんです。私も去年すでに申請してあるものは部落排水路で一次、二次、三次継続事業として資材交付をさせていただいて二次まで終って、それから一番大きな終末の堀なんです。それは二尺のU字溝を八十何メートルか残っているわけです。大変大きな仕事です。市の直轄事業でやれば大

きな経費がかかる。そこで地元の職人がわれわれの技術の面は奉仕するから資材だけ市からもらって来い。こういうようなことでかかっておって、それが一次、二次が農水から出て、三次が結局これは部落の排水路の排水路だから当然建設の面だ。そういうふうは何回となくそういうことが繰り返されたわけなんです。今年はいずれにしてもどちらから出ると思いますが、また雨が降ると道路がうんでしまう。そういうことでございます。そのほかはよくわかります。現在予算化している舗装はこれははっきりと建設というふうに聞いておりますけれども、それらもうはっきりしております。

私の言うのは、排水路部落の。それと大神宮に一カ所、犬石に一カ所これはうちの方の飛び地の一部でございます。こういう面は実際に見に来ていただいて、そうして検討していただければ一番私は目で見ただけでわかると思います。それはそれだけで。

第二点、これは合法的にやらなければ当然いけない。産業公害私はそういうことでなくして、生活の知恵として出たものが仮りに簡単にできれば、それを大型化することによって一つの解決策になりはしないか、そういうふうに私申し上げたのでございます。決してこれを絶体何が何でもいい方法だからやれ。こういうようなことではございません。

牛の尿と人ふんが一緒になると非常に分解が早い。においを早く消す。発酵が早い。臭気もいつまで長く残らない。なにか私どもにおいが大変少ないように考えますので、大変それが活用できれば、まだあまり例はないけれども、あるいはいい発見ではないでしょうか、それを申し上げたのでございます。

私がそれを申し上げて、結果的にお願いしたいのは、やはり酪農公害対策として私どもが一番困っているのはパキニウムカーなんです。予算の関係で小型のパキニウムカーを買おうと、大変高いわりに中の量が少ない。五百ぐらいしか入らない。大型のパキニウムを買うのは高い。いま酪農の収入ではそれが買えない。近代化資金としてもこれは返さなければいけないし、三芳、富山町ではこれは構造改善事業に備えて七割五分ですか、国、県の補助を合わせてそれで皆さん買って使っているわけなんです。館山でもそういうふうなことができれば、行政的なやはり指導をしていただきたい。そういうことなんでしょう。

大変、質問が焦点がわからないようなことでございましょうが私はもう少し関心を持っていたら、酪農には実際やっている方にそういう予算を取って、これは協業化も先ほど減反のときに石井さんのあれで出ましたけれども、個人で、一人でやるというのはなかなか国、県の補助をもらうには企画に合わないと思います。それをもう少し市で関心を持っていたらいい。そういうことでございます。要望とともに、そういう予算が取れるかどうか。

○市長（半沢良一君） 御質問と御要望でございましたが、なかなか個人単位で御事業をなさる場合の補助金というのはなかなかむずかしいかろうと思います。地域単位で共同で事業を行うという場合には、先ほど申し上げましたように畑地区でもやっておりますし、今後それぞれ地区単位で協業をする場合には対策を考えたいと思います。

○五番（黒川平治君） 雑排水の面が何か管轄云々、私は部落雑排水路の面で建設課の管轄か、農水の管轄か。それをお伺いいたし

ます。

○市長（半沢良一君） 経済部担当でございしますので、現地につきまして検討いたしまして、どうするか決めたいと思います。

○五番（黒川平治君） 現地は何回かにわたって見ております。継続的なものであって今年が三回目でございますので、ひとつ早速見てお願いしたい。

これで、私の質問を終わります。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、五番議員君の質問を終わります。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後一時開会いたします。

午前十一時四十七分 休憩

午後 一時 三分 再開

○議長（吉田勇治郎君） 午後の出席議員数二十六名、休憩前に引き続き会議を開きます。

一八番議員渡辺軍治郎君。

（一八番議員渡辺軍治郎君登壇）

○一八番（渡辺軍治郎君） 私は、次の六点について質問いたしたいと思っております。前回の通告質問では市長が見当はずれの答弁をしたことがありますので、（笑声）質問の要旨をぜひよくつかんでいただきたいと思います。

第一点は幼児教育について幼保一元化の問題、第二点は保育行政について五項目、第三点は都市計画税の値上げと事業計画、来年度実施の固定資産税の評価替えについて、第四点は市有地の地代値上げについて、第五点は里見史料館建設促進会とその事業について、第六点は水道給水装置修繕施行徴収カードについてであります。

まず第一点の幼児教育についてですが、最近青少年の非行化が問題になり、幼児教育の重要性が見直されてきております。多くの学識経験者が家庭の過保護、それとは逆に疎外される子供、それらを取り巻く社会環境の悪化等から、幼児の教育特に三歳児までの時期の集団教育が決定的に重要だと言っています。

ところが、保育園は入所基準で保育に欠ける幼児を対象としているため、一般家庭の幼児は短時間でも集団教育の機会が与えられていません。

幼稚園は、学校教育法による就学前教育として位置づけが定着していますが、短時間保育であるため、保育に欠ける幼児は入所できないというそれぞれ矛盾があります。

保育園と幼稚園では施設にしても、保育内容についても質の違いがあります。このような厚生省と文部省所管による二元化された幼児教育に対して、子供の発達を一貫して保証するような幼保一元化を目指す要望が高まっています。大阪の交野市では五十一年度から一元化を実施していますが、館山市でも教育文化福祉都市をスローガンにしているのですから、幼保一元化に接近する施策を進める必要があると思いますが、お伺いします。

次は、第二点の保育行政についてですが、第一の保育時間延長の問題ですが、現在午前は七時三十分から、午後は五時三十分まで延長をお願いしているのですが、勤務の関係で午後は六時まで延長してもらいたいという保護者の強い要望があります。実施できないかどうか、お伺いします。

第二は保育料の適正化についてですが、館山市の保育料は八の階層で三歳未満児は三万五千三百円で、三歳児の二倍になって

います。鴨川市は同じ階層で一万二百円、零歳児は二万円。一般文教民生委員会が視察した大阪の交野市では一万八千二百円で多くの都市で厚生省基準を五〇％程度低く決めています。館山市もこの計算でみると一万九千四百円になります。

憲法第十四条は「すべて国民は、法の下に平等で、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない。」と、同じく第二十六条では「すべて国民は、能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する。」と規定し、地方自治法第十条では「住民は、その属する地方公共団体の役務をひとしく受ける権利を有し、その負担を分任する」としています。

幼児保育の場合、年齢差はあっても提供される役務は平等であるのに、負担の分任という点では、税負担の大きいほど保育料も高額になっています。過大な負担は教育の機会均等という点からも問題であり、三歳未満児を三歳児並みにする必要があると思いますが、お伺いします。

第三は、幼稚園の給食についてですが、給食のないのは幼稚園だけで、これは教育上の欠陥ではないかと思いますが、実施できないかどうか、お伺いします。

第四は、幼稚園児の送り迎えについてですが、園児の送り迎えは自転車で行っているのが大半で交通事故の危険が心配されています。雨、風の日などその苦勞は大変なものです。特に館山、北条幼稚園は四百人から五百人に及ぶ幼児が一斉に集中する状況から見て、対策が求められています。お伺いします。

第五は、学童保育についてですが、留守家庭の児童を調査してもらいましたところ、一年生から六年生を通じて六百十一人、

そのうち保育を要する児童数が百十人あります。学校から帰っても、働きに出てゐる親が帰るまで何をしているのか心配せずにはいられないと思います。保育を要する児童のうち三十二人は一年生です。少年の非行化を防止するためにも、これらの児童の保育は必要だと思ひます。八幡の鈴木とみさんは自宅を開放して学校帰りの小学生を三十人保育しています。実情に沿った援助をする必要があるのではないのでしょうか。そしてこのような経験を生かして各学校区に児童保育を促進する必要があると思ひますが、お伺ひします。

次に、第三点の都市計画税値上げと事業計画、来年度の固定資産税の評価替えについてですが、市長は都市計画税の税率アップを専決処分で決定しましたが、市民生活に重要な影響を持つ議案が審議しないで決定されたことは全く不当であると思ひます。

都市計画税は四十八年以降事業計画を上回つております。五十二年度も二千万円超過になっています。五十三年度予算では税率アップによって約五千万円の税収増になります。このような状況のもとでは税率アップは見送るべきではなかったかと思ひますが、お伺ひします。また税収増による事業計画をどうするのか、これもお伺ひしておきます。

なお、来年度は固定資産税の評価替えが行われますが、都市計画税の値上げと重なり過大な税負担となり、これが地代、家賃にはね返り、市民生活を圧迫することは過去の例から必定であります。したがって、来年の評価替えについては都市計画税との関連で評価を最小限にとどめるべきだと思ひますが、伺ひます。

次に、第四点の市有地の地代値上げについてですが、資料によ

りますと、今回の値上げは約三倍の大幅値上げになっています。

問題なのは、地代の計算に地代家賃統制令第五条に基づく建設省告示の計算方式を採用しようとしていることとあります。これは地価を預金した場合を仮定して、その利子と固定資産税を合計したものです。この計算では実情を無視した過大な地代となるので、昭和四十七年から建設省と全国借地借家人組合連合会との間で行政訴訟が行われ、現在もお係争中のものであります。不動産鑑定士も継続地代と新規地代との関係で矛盾のあることを認めており、実例としてほとんど実行されておりません。ことに、地代家賃統制令の適用範囲は昭和二十五年以前に建築した建物の敷地三十坪に限定されています。これを一般化することは不当であると思ひます。このような建設省告示の計算方式の採用はやめるべきだと思ひますが、お伺ひします。

また、地代の値上げは、公有財産も借地借家法の適用を受けますので、当事者間の話し合ひで決定すべきだと思ひますが、この点もお伺ひします。

次に、第五点の里見史料館建設促進会とその事業についてですが、最近里見史料館を建設しようという署名運動が町内会を通じて回覧板で行われていますが、どのようなものをつくるのか、その形態、規模、予算等も明らかにされていません。宣伝文書では館山城（里見史料館）が復元されないのは残念に存じますとありますが、史実として天守閣があったことが立証されているのかどうか、社会文教課では文化財保護の立場から検討したことがあるのかどうか。また市長はこの会の顧問になっているので、御承知のことと思ひますのでお伺ひします。



なお、建設促進会の役員名簿に私の名前も載っていますが（笑聲）入会申し込みをしない私が役員に選出されるという奇妙な会になっています。

この会の目的が史料館をつくるのか、館山城をつくるのか不明確なまま署名運動が進められていることに對して、市民の中に危機の感を持たれています。このような不健全な運動に對して市長は行政指導をすべきだと思いますが、お伺いします。

次に、第六点の水道給水装置修繕施行徴収カードについてですが、この徴収カードの中に経費明細のほかに諸経費として二〇％以内の経費が追加されています。市民の中から不満と批判が出てゐるので説明をお願いしたいと思ひます。

以上、不十分な点は再質問で行います。

（市長半沢良一君登壇）

○市長（半沢良一君） 渡辺議員の御質問にお答えをいたします。

私が理解し得た範囲内でお答えいたしますので、もし、的はずれのことをごさいましたら、再質問でお答えをいたします。（笑聲）大きな第一点、幼児教育について、幼保一元化に接近する方策を進めるべきではないかと思うがという御質問でございます。

この幼保一元化という問題につきましては、全国的にも関心が高まっておりますし、当市においても関係者が関心を持っております。ところでございます。昨年度検討をいたしましたわけでございます。しかし、いろいろ検討しております過程の中で問題点が非常に多いわけでございまして、また全国的に実施事例が少なく、神戸市では実施された多聞台方式というものを最近廃止されたという事情がございます。交野市で実施された事例というのは四十七年度

及び五十年度に開設されたものでございまして、さらに長期にわたる効果を検討する必要がある。そういったような事情から、いろいろ問題点もございますので、今後も引き続き検討をいたしたい。そういうふうに考えています。

次に、保育行政についてでございますが、その小さな第一点は保育園の保育時間を十八時まで延長できないかという御質問でございます。

渡辺議員もご存じのように、現行の保育時間はすでに基準よりも時間延長を実施しているわけでございまして、さらにこれ以上延長するということは、乳幼児の情緒障害等心理的な問題を引き起こす問題の原因ともなりますし、乳幼児を心身ともに健やかに育成する上からもあまり適当ではないんじゃないか。この問題は働くお母さん方の立場も考慮いたさなければなりませんけれども、しかし乳幼児自身の立場を考えなければならぬ。そういうふうに考えておりますので、現在の段階ではこれを延長する考えはございません。

それから小さな第二点、保育料の適正化の問題の御質問でございますが、館山市の現行の保育料徴収額は国の徴収基準に準拠をいたしておりますので、そしてこれを定めたものでございまして、国の基準よりも約九％程度低くなっているわけでございまして、各市それぞれ保育料がバラバラであることは承知をいたしておりますが、館山市の場合、決して高くない。適正ではなからうかというふうに考えております。

小さな第三点、幼稚園の給食実施でございまして、現在小中学校に実施しております学校給食を幼稚園にまで拡大するという計

計はございません。現在の給食センターの供給能力は、管内の小中学校に対する給食で手いっぱいでございます。また義務教育でもございませんために補助金がございますので、給食費が高くつく等いろいろの事情もございますので、現在のところ、幼稚園に拡大する計画はございません。

小さな第四点、幼稚園児の送迎対策でございますが、幼稚園児の保護者による送迎につきましては、保護者も、また関係者もいろいろ心配をいたしているところでございますので、この現状と問題点につきましては、多くの問題がございますので、関係機関と協議検討中でございます。

小さな第五点の学童保育の促進でございますが、都市化現象の激しいところではかきっ子対策の必要がきわめて高いと思っておりますが、本市においてはその必要性はそれほど高くはないというふうに認識をいたしているわけでございます。

ただいま、具体的に数字の御提示をいただきましたけれども、実態把握の必要もございますので、この実態を把握をいたしまして、それに基づきまして今後慎重に検討いたしたいと考えております。

それから大きな第三点、都市計画税の値上げと事業計画、来年度実施の固定資産の評価替えについての御質問でございますが、御案内のように、都市において住居環境の改善を図るための下水道、街路、公園等の施設の整備は大きな課題でございますが、地方財政がきわめて厳しい財源不足となっているわけでございます。これら、これらの整備の財源を確保することはなかなか困難な状況になっているわけでございます。このような事情にかんがみまして

今回都市計画税の税率を百分の〇・二から百分の〇・三に引き上げたわけでございます。

御指摘がございました都市計画税の税額が事業費を超過しているというような問題が御指摘がございましたけれども、これは一年だけといったような単年度でなく、長期的にそれを見ていただかなければいけないというふうに考えております。

さしあたりまして、今後施行する都市計画整備事業の予定は、五十三年から五十九年度あるいは六十二年度程度見てみますと、まず五十三年から五十九年度にかけましては都市街路整備事業費として約八億、し尿処理関係で五十三年から五十五年にかけて十三億、ごみ処理関係で五十五年から五十六年にかけて十二億、館山運動公園は五十三年から六十二年程度まで予定しているわけでございますが、これが二十七億でございます。総額六十億程度いるわけでございます。そのうち国、県の補助金を除きますと、当市の負担分が三十三億四千七百万程度になるかと予想されておるわけでございます。当面五十三年から五十六年あるいは六、七年の間にこの程度の市費がいるわけでございます。それから、固定資産税の評価替えでございますけれども、昭和五十四年度の固定資産の基準年度の評価につきましては、現在各地目における県内の基準地の評価の調整が行われている状況でございます。上昇率の目安となる平均指示額の内示につきましては七月以降になるように伺っております。

それから、第四点の市有地の地代値上げでございますが、御案内のように、市有地の契約は三年ごとに更新しているわけでございます。昭和四十七年四月ないし四十八年四月に一〇・五・五

の値上げを実施いたしておりますが、五十年四月には評価替えがございましたけれども、そのままの額で契約を更新をいたしていただくわけでございまして、現在の時点で考えますと、一部にはきわめて低いものがあると、そういうのが実情でございまして、本年度の契約更新に際しましては、家賃地代統制令それから建設省の告示でございまして、これに従って計算をいたしたいと、ただ、現在の地代が非常にアンバランスの面、非常に低いものもございまして、そういうものにつきましては、算出額が旧地代から高くなる場合も考えられますので、三年間の負担調整を行いたいと、そういうふうに考えているわけでございます。

それから大きな第五点、里見史料館建設促進会とその事業についてでございますが、この会の目的、事業等につきましては、公式にはまだ市に対する申し入れはございませんし、私も顧問になつてゐるわけではございません。

新聞折り込みの促進運動の署名依頼の文書そういったものによりますと、城郭形式の里見史料館を建設を促進する組織であるというふうに考えているわけでございます。

しかし、現在の段階では、私はこうした史料館としての館山城と申しますが、そういったものをつくる考えはございません。現在御案内のように、史跡としての館山城址の調査を五十二年度に引き続きまして五十三年度も行います。場合によっては五十四年度も引き続き行いたいというふうに考えておりますわけで、そういう結果、御質問のような天守閣があったかどうかというような問題も解明されるのではないかとというふうに考えておるわけでございます。

いずれにいたしましても、現在の段階では史料館としての館山城というものは、建設は考えておりませんので、したがってこれについて行政指導というようなものも現在考えていない段階でございます。

大きな第六点の水道給水装置修繕施行徴収カードについてお答えをいたしますが、水道給水装置修繕施行徴収カードは、給水装置の漏水等の簡易な修繕工事を実施した場合の料金をいただくに必要な使用材料、工費、諸経費等を記入いたしまして、徴収するためのカードでございます。

特に、諸経費の内容でございしますが、これは建設工事における間接工事費としての共通仮設費と現場管理費並びに一般管理費に相当するものでございます。給水装置の修繕工事の諸経費は、修繕工事に間接的に必要な経費で運搬費、仮設費、安全費等でございます。二〇％程度を限度として徴収いたしているものでございまして、御質問のように重複したものではないというふうに考えております。

以上、御答弁を終わります。

〇一八番（渡辺軍治郎君） 課題がたくさんありますので、一つ一つやっていきたいと思ひます。

幼保一元化の問題については昨年来検討しているというお話ですが、これは問題がかなり多いわけですから、当然私立の保育園とか、あるいは幼児保育に関係する保母さんや教師それから保護者そういったようないろいろな関係のある人ですね。十分これは協議しなければいけないことだと思ひますので、この点については、ひとつこれからの問題として十分協議をする必要があ

ると思います。市長も引き続き検討するということですが、ただ幼児保育一元化にいますぐやれという形で問題を出しているわけではないわけで、幼児保育一元化に接近する方向で検討をお願いしたらどうかということなんです。

たとえば、幼稚園は文部省管轄ですから、学校の隣に幼稚園がつくられる。これは一時幼稚園が義務化されるのではないかと思います。幼稚園と保育園を併設して建てられようという時期もありまして、小学校と幼稚園が併設して建てられている。どこでもそうですが、少なくとも幼児保育一元化を目指すのであれば、幼稚園と保育園を一つのところに建てる、でないと、短時間保育と長時間保育の組み合わせができない。これは幼児教育の重要性からいけば、三歳児までのいわゆる三つ子の魂百までと言われておりますが、三歳児までの間の教育が最も重要だということに言われているわけです。ところが、三歳児までの子供は保育園では制限があるわけです。入所基準がありますから、保育に欠ける子供でなければ入れない。一般の家庭の子供が集団教育が必要だと、短時間でもいいから保育園に行きたいと言ってもできないわけです。一番大事なときのそういう教育ができないということ、いま少年の非行化が進むという中で、そこが一番大事ではないかというのが最近の学識経験者の意見なんです。

ですから、そういうようなことで幼児保育の一元化を重視するとすれば、それに接近するためには、館山市でも施設が厚生省の福祉施設に保育園はなっているわけです。だから、教育全体として幼児教育を見た場合には、館山市でもこれから保育園や幼稚園を改築していくところがたくさんあると思うんです。それをいまのうちに小学校と併設して幼稚園を改築していくのは、将来幼児教育

の一元化を目指すのであれば、この改築するところは保育園と幼稚園を併設するというような形で、モデルケースとしてこれから幼稚園、保育園をつくるところはやれないかどうか。その点はいかがですか。今後の検討課題としてですね。

○教育長(安田豊作君) 市長から幼児保育一元化について検討し、今後も検討したいという答弁がありました。現在もそれに結論は得ておりませんが、ということとは検討中ということですが、渡辺議員から幼稚園と保育園を一緒の場所に建てることはどうか。昨年度として検討したのはそれがねらいでございまして。どうするかという問題、いま私どもが建築を進めている中で考えている問題は、これを一緒にすることは非常に困難があるという段階でございまして。本年度建築を予定しているものについては、離して建てるを得ないという段階の結論を私どもとしては得ております。

確かに、幼児の一元という問題は、要するに幼児を同じ体制の中で教育をしていくということは、考え方の中では正しいことであるし、できればそうしたいというのが根本に検討したわけでございますけれども、行政官庁は二つあるということと、それから渡辺議員が強調されました集団教育の必要性の問題についても、私どもは集団教育と集団主義教育は違うという考え方でございまして。なお、渡辺議員さんの指摘されているのは集団主義教育でありまして、集団を通して子供を教育していくということとはやや違うところがあるのではないかと。そういう意味で、必ずしも一緒に建てる必要はないか。そういう意味で、必ずしも一緒に建てる必要はないか。それは三歳児までよりも、三歳児以後でも足りるのではないかということも一つはあります。

そんなことで、検討不十分ではございますけれども、現在の段階においては離した建て方でやる。その基礎には、現在館山市には保育園が私立が五つ、公立が五つ、公立の幼稚園は十、私立の幼稚園が一つあります。しかも、それが各地区にちらばってありまして、住民の希望によって、その希望のところにに行けるということは、考え方によっては現段階においては最も適した環境にあるという考え方も一つにはあります。ここで一気に一緒にしちゃうというところまで踏み切れないということで検討中の段階でございます。

〇一八番（渡辺軍治郎君） 私が提唱したのは、幼児教育を一つの主義とかいうことでなしに、三歳児未満の子供が大事だというのは過保護とか、阻害される子供とか、それぞれ社会環境の悪化から、そういう立場に立つて集団教育の必要性が四歳、五歳児よりも三歳未満児の方が重要だということが一般的に言われてきておるということで問題を提起したわけです。

いまの段階では館山幼稚園、北条幼稚園はマンモス幼稚園四百名以上あると思うんです。だから、交通上の問題あとになって問題出ると思うんですが、そういうところから見ても、もっともって地域地域に細かくやっていくというようなことが望ましい姿ではないかと思えますので、一応これは意見の違いもあるようですが、十分検討してやってもらいたいと思います。

それから、保育行政についての保育時間の延長がいまでは無理だと、考えていないということですが、交野市あたりのこれを見ても六時三十分までやってるわけですよ。それぞれ地域の実情があると思うんですが、館山も六時まで延長してくれ、というのは

勤めている人がすぐ時間で帰ればいけないけれども、もっと遅れるような場合もあるし、帰ってすぐ迎えに行くというのはかなり骨の折れる仕事であるわけです。

保育時間の延長というのを幼児の立場からというよりことでむずかしいような話もありましたけれども、結局保育時間を延長することが幼児のためによくないということが、それはいいか悪いかの問題になるわけで、これは家庭に長くいた方がよいという立場をとる人は、やはり時間はなるべく延長しない方がいいというところも確かにあると思うんですが、しかし、保育園に預けている親の立場からすれば、早く迎えにいきたいとしても、勤務の都合で行けないということから、結局延長の時間が問題になってきていると思うんですが、現在できないということでは、これはどうも困ったことですが、できるだけ延長するような方向で検討していただきたいと思えます。これはできないということですから、それ以上は質問しません。

保育料の適正化の問題ですが、館山市では九割補助をしているということですが、他市と比べるとやはり高いわけですよ。鴨川市をいつも例に出しますけれども、一歳児から三歳児までですが一万二百円すべてブールです。ゼロ歳児が二万円。この前神奈川県の例を出しましたが、十八市のうち十七市が二万円以下というふうなことで、大体都市化されたところでは二万円かそこらですよ。ですから、館山市の場合、少しそりいう点から見ても高過ぎるのではないかと、この前からも問題にしているんですが、これは多くのお母さん方から出ている問題ですから、これも市長は高くないと言っていますが、これは厚生省の基準から

見ての話であって、一般の市から見ればかなり高い料金になってるわけです。これは教育の機会均等とかそういうような点から見ても、この問題はもっと検討をして下げることはできないかどうか、その点ひとつお伺いしたいと思います。

○市長（半沢良一君） 高いか、安いかわいのは一応ある基準があって、それから比べて高いか、安いかわいという問題で、確かにある幾つかの市から比べれば高いところもあると思いますが、しかし、厚生省の基準どおり徴収している市も全国的にはたくさんあるわけでございます。そういう意味から言えばやはり高くはないと、現在の徴収額で適當だろうというふうに考えております。

○一八番（渡辺軍治郎君） 次は、幼稚園給食の問題ですが、小学校や保育園が給食をしていて幼稚園だけが給食がない。給食の目的はやはり健全な体位をつくると、体をつくるということと食生活の改善ということで給食をやられていると思うんですが、幼稚園の給食ができないという一つの理由に、義務教育は補助金があるけれども、幼稚園は補助金がないんでむずかしいんだということとを言われておるわけですが、お母さん方は金を出してもいいということと言ってるわけです。お弁当を持たせてやるというようにすることは、各家庭でそれぞれまちまちで、給食を通じて教育をするというようにすることから見れば、やはり教育の機会均等といいたすか、そういう点から見ても幼稚園給食やらなければいけない問題だと思えます。

そういう点では、給食費は保護者が負担するわけで、国からの補助金がなくともそういう点は話し合いて了解できるのではないかというふうに考えますが、この点はどのようにお考えになりますか。

いますか。

○教育長（安田豊作君） 幼稚園は義務教育でないから補助金がないわけですが、渡辺さんの発言の話し合いを持つと父兄は金を出していいから給食をやってもいいやと、私もが話し合いますと、そういう人もないわけではありませんけれども、幼稚園の子供はお弁当は母の愛情で弁当を持たせてやった方がいいんだという発言がかなり多いわけです。また幼稚園の保育の時間が四時間という時間の中でお弁当のめんどろをみるということは保育園の方はむしろ生活の方ですから、これはご飯を食べさせることが当然の仕事になりますけれども、幼稚園の方はそういうことに労力、時間を取るよりは取らないでということがあります。

それから、金を出せばと、食事材料の金だけでなしに、これも保育園なんかの例を見ると、余分に給食の調理員は別にいるわけです。その人件費まで加えらるとかなりの金額になります。そういうことを考えてみますと、私どものつかんだ範囲内においてはむしろ弁当の方がいいんだという声もかなりありますので、まだ踏み切れない段階でございます。

○一八番（渡辺軍治郎君） お母さん方によっていろいろあるでしょうが、しかし教育上の立場からいって、やはり小学校と同じように、義務化でなくても給食によって指導していくという面が相当あると思えますよね。だから、そのために給食が教育の中に取り入れられているわけですから、保護者の考えの点についてはアンケートを取るとか、そういうことでもし給食が必要だという声が大きければ、やはり教育上の立場から、保育時間が短かいといっても指導上必要ではないか、そういう点で、これはひとつ検

討していただけますかどうか。

○教育長（安田豊作君） 他の地区を調べまして、やっける地区もありますので、さらに検討したいと思えますけれども、いま言った経費の点、それからそれに対する時間の問題、それから非常に大きな問題は、幼児というのは小学校、中学校の大きな子供に比べて非常に嗜好の点、好ききらいが非常に激しいわけでありまして、調理が、献立が困難だ。どういふふうに調整できるか具体的にさらに調査、検討してみなければならぬと思えます。よそでやっておりますので、さらに検討させていただきます。

○一八番（渡辺軍治郎君） これはひとつ検討課題としてやってもらいたいと思ひんです。

次は、学童保育についてですが、これは實際が把握されてないのでこれから検討したいという事です、實際には八幡でやっけるわけですよ。青少年の非行化がやっぱり進む中で、親たちが帰るまで子供が放り出されているというのは親も心配になるし、われわれとしても社会問題として考えた場合に、何らかやっぱり手を打たなければいけない問題だと思ひわけです。

そう大規模のものでなくても、教師を退職したそういうような人たちの協力を得て、小規模でも十人でも、二十人でもやれるようなことが各地域でできれば、やってやれないことはないんじゃないか。八幡の場合は一人七千円で引き受けてやっけるようですよ、五千円ぐらいでもやってやれないことはないんじゃないかというふうに考えますので。

この点についてもう一つ、こういう仕事をしている人に補助の手は差し伸べられないのかという点、質問では答弁が落ちており

ましたが、公的なものでありませんから、補助というのはむしろしいかもしれないけれども、三十人も小学生が保育を受けているわけですから、私立の場合でも何とか補助はできないかどうか。その点をひとつ伺ひしておきたいと思ひます。

○民生部長（石井 謀君） お答えいたします。

渡辺議員さんのおっしゃるように非行化の問題等もございまして、現在民生委員等の御意見も伺ひしているような状況でございますので、いましばらく検討をさせていただきますと思ひます。なお、補助の問題等につきましても、いましばらく時間を猶予をいただきたいと思います。

○一八番（渡辺軍治郎君） 次は、都市計画税の値上げについてですが、市長の答弁では、いろいろとほかのこれらの事業とそういうような関連で財源不足になつてるといふような答弁ですが、単年度でなく、長期的な展望でというような話もありましたけれども、これは都市計画税は目的税ですよ。都市計画法の五条に基づき事業に充てるために都市計画税を取つてもいいということになつてゐるわけですから、目的税を他に流用するといふようなことはできないと思ひますが、その点はどうですか。

○総務部長（鈴木弘道君） お説のように、都市計画税は目的税でございますので、他の事業には流用することはできません。

○一八番（渡辺軍治郎君） 流用することはできないわけでしょう。資料によると、これは四十八年から評価が二倍になつてかなり評価が上つてゐるわけですよ。そのために目的税である都市計画税が予算に対して歳入の方は四十八年一千四百三十万円多いわけです。それから四十九年が三千二百万円、五十年が四千三百万円、

五十一年度は谷藤原の運動公園が公園費の中に入っていますからかなり違います。五十二年で三千万円、こういうふうに都市計画税の方が事業よりも多いわけですね。都市計画税の対象事業としては街路事業費、都市下水路、公園費その三つが対象事業になってるわけですね。市長は尿のようなことも言いましたけれども、大体都市計画というのは限定されているわけですね。それが多いと、とにかく都市計画の方が上回って多いというときに、都市計画税率を専決処分で上げてしまった。こういう館山市の予算状態から見れば上げなくてもよかったのではないかと、その点をさっきお聞きしたわけですね。だから、これは仮定で今年百分の〇・一%上ったのを予算の収入で見ると、大体五千万円ぐらいは浮いてくるわけですね。そういう点では問題があると思うんです。これは議案の中にありますから、そのときに都市計画税の問題については言及していきたいと思っています。

それから、次に市有地の地代値上げで私が問題にしたのは、いままで市有地の値上げについて建設省告示の計算方式、地代家賃統制令の五条に基づくこれは告示なわけですが、これでいきますと、評価に対して利息をみるわけですから、事業をやったり、住んでるといふ土地は売買の対象にならないわけですね。土地の売買の対象になるといふことならば、その金をみてその利回りをもとにするというところも考えられますが、事業をしたり、住んでいるところの土地を評価をして、その金利をみるというようなことはかなり地代が高くなるわけですね。市長は三年間に軽減するということのようなことを言いましたが、最近争われた裁判、不動産鑑定士のあれもあるんですが、この中でやっぱり出ているのは、底地価

額に対して五%の利益をみているわけですね。鑑定士が出した不動産鑑定書の中に、ところが、更地価額にいくと利回りが一・二%になってるわけですね。法廷でこれを質問されて鑑定士は困っているわけですね。五%の利益をみたものが、どうして一・二%の利益に減ってくるんだというところ、五%の利益をみた場合には莫大な地代になるわけですね。実情に合わないから、実情に合うような標準値を出すために一・二%の利回りに落していると、こういう問題があるんです。

だから、実際にはこういう鑑定書が出てもおそらくにはいつてはいないんです。ですから、建設省の告示という計算方法でいきますと、べらぼうに高いものになる。しかも、あれは最高限度額を示したもので、そのとおりにいっている実例はないわけですね。それを館山市は今度初めて地代の値上げにこの建設省告示の、四十八年度は評価額の五%を見込んでいたわけですね。いま建設省の告示はだんだん変わってきてもっともひどいものになって、いまの価額でいくと十倍も高い地代やそういうものが出てくるので法廷で争われているわけですね。統制令以外にこれをまた一般の地代に適用するということでは問題になってるわけですね。これを市が取り入れるということは問題があるのではないかと。その点をお聞きしているわけですから、お答え願います。

○総務部長（鈴木弘道君） 地代の算定につきまして金利、利潤等の関係がございましたけれども、市が今年度改定をしようとしてその算定方式につきましては、地代につきましては四十八年度の固定資産税の課税標準額、それと当該年度の固定資産税と都市計画税の額を基礎として計算したものでございます。そのような利益



利潤等の関係は算定の根拠に入れておりません。

〇一八番(渡辺軍治郎君) だから、四十八年度の計算は、あの当時の課税標準額に対する五%、その後評価額に対する五%、その後も改悪してかなり膨大なものになっていますが、預金した利子を見ろというそういう考え方が妥当かどうかということなんです。また借地借家法で言えば当事者間で話し合いて決定するというのがこれが借地借家法ですよ。それを市の側が一定のそういう基準をつくって、それを押しつけるというようなことはまずいのではないかと、終ります。

〇議長(吉田勇治郎君) 以上で、一八番議員君の質問を終わります。暫時休憩いたします。

午後二時 二分 休憩

午後二時三十二分 再開

〇議長(吉田勇治郎君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

次、一番議員近藤好雄君。

(一番議員近藤好雄君登壇)(拍手)

〇一―番(近藤好雄君) 私は、次の四点につきまして通告いたします。

第一番に館野、九重地区の水道施設の整備について、二番目には市道の舗装と園場整備につきまして、三つ目は九重保育園と幼稚園の園舎の建設計画について、四番目は社会体育とスポーツ振興についてでございます。

第一点といたしまして、館野、九重地区の水道施設の問題ですが、館山市の将来に対しましてきわめて重要な飲料水である館山市の水道事業も、住民の生活水準の維持、経済、社会の変動に伴って

水道事業の重要性もますます増加しまして作名ダムを建設され、市内にただ一つ残された館野、九重地区住民の文化生活向上のため、ぜひとも水道施設を設置されて、浄水のありがた味を味わいたいと、住民を代表して御質問いたします。

前に述べましたように、同じ館山市に在住するものとして、文化生活を営めない不公平いろいろと考えられます。私の調査によりますと、九重小学校のプールの問題、農家の生活、経済に伴う乳業会社の問題、この会社におきましては深さ百五十メートルの井戸を掘りましたが、塩分を含み非常に悪い水質でありまして、一日の使用量は三千六百リットルも使用されておるわけでございます。次に安房畜産農業協同組合の場合は六十六メートル井戸を掘り、やはり塩分が多いため、また毎年行われている市の共進会場であり、また県都市、関東大会もあるのでありますが、共進会の出品者はみずから使用する水を運んでいる状態でありまして、また年に六回の牛のせり市場である千葉県経済連安房支部の冷蔵庫の関係、安房共済組合の水稲の空中散布に使用する農業水、館山市農業協同組合の九重支店の使用される水、共済家畜病院、また飲食店の大珍でございますが、一日に二千五百リットルの水を使うわけでございますが、二キロも離れた場所から毎日のように運んで使っている状態であります。またスーパ―は冷蔵庫を約一日に二千リットル使用されます。東部地区園場整備の関係、広瀬、竹原の一部におきまして飲料水が不足しているため、また五十三年度九重小学校体育館建設計画がなされますが、次年度は保育園幼稚園の園舎の建設もあり、浄化槽の問題等に関係を得るため、市では水源調査費を三百六十万円計上してありますが、いつ調査

されるのか、お聞かせ願います。

次に、市道の舗装化の整備計画であります。市内の道路につきましては逐次改良、舗装を進め、四カ年計画による主要市道の舗装も完了され、五十三年度道路新設改良事業中、九重におきまして安東宝貝線ほか一、蘭三島線、二子岩川線が予算化されておりますが、二子百五十番地地先九重駅に通ずる舗装につきましては、以前より地元の通勤者の要望も非常に多く、建設課にお願いいたしてありますが、二子岩川線と同時に舗装できないものか、お尋ねいたします。

また、水玉、田村、相賀、横枕、田辺に通ずる市道でございますが、圃場整備のために幅員され、一昨年度県営圃場整備事業も終了いたし、道路改良工事計画はどのようになされておりますかお尋ねいたします。

前に、黒川議員より通告されましたが、農村地帯の農道、里道、雑排水路等環境整備について、農業用施設の整備は農業振興の基本でございます。圃場整備実施後の農道は実に広く、利用度はますます高く、これらは現在砂利道でございながらはなはだしく、原材料、砕石七万円ではとても少なく、前に市長さんは、不足の場合約は農業用施設等補修用材料費三百万円計上されてますが、以後不足についてどのように整備、活用するかをお考えをお尋ねいたします。

第三点は、九重保育園と幼稚園の園舎建設計画、施設整備特に幼児一元化のことについては最近マスコミ等に取り上げられ、幼児教育が必ず論議される問題である。すでに幼稚園でもない、保育園でもない新しい感覚と目的を持った幼児保育施設が誕生し始

めている。名称もまちまちで、ただいま成果を目指して試行段階であると聞きますが、幼児教育の先進地であるわが館山市でも詳細に見つめていくと、やはり問題が山積みではないかと思えます。館山市における幼稚園、保育所の現状。幼稚園は公立が十、私立が一、保育所は公立が六、私立が五が設置されておりますが、幼稚園の二年課程がほとんどで、一年課程は歴史の新しい三園だけである。館山市教育委員会における幼児一元化問題に対するお考えをお聞かせ願います。

次に、第四点であります。館山市は市民憲章の第一に体力づくりを掲げております。市民の体位向上と健康増進を図るため、市の体育スポーツ団体の育成と組織の強化を図り、市民総スポーツ運動を推進してまいりたいと考えておりますが、社会体育指導委員は、社会体育とスポーツ振興について現在及び将来にわたって体育、スポーツを見通して、それを望ましい姿で実現するため青少年の心と体をつくるため、学校外の教育活動にも手をかけてほしい。スポーツの組織者、したがって本来これらの問題、それから青少年育成の問題、指導の問題、これは指導というのは、資格を持った人が指導するんですから、学校の先生が教育免許を持っているから教育ができるんであって、教育免許を持たない人が教育すれば大変な問題になるわけです。

現代社会と青少年のスポーツ環境については、教育の中だけで考えるという一次方程式では教育の問題は解けない。社会全体の中から教育を解く高次連立方程式でなければならぬと思えます。そこで、問題を持つ住民、親、先生、学校参加で、つまり教育に関心のあるものが、学校を中心とした学校体育の時間で、学校

外の時間を生かしたスポーツの仕組みをこれから新しい形としてつくっていく、学区の住民の皆さんをひきこめるための一つのコミュニティの中で実行していくことが、とりもなおさず教育をよくし皆健康になり、スポーツも盛んになり、必然的に文化活動も盛んに起こってくると思うのであります。

青少年の健康と体力についても、学校教育が果たしてきた役割は絶大であったと言える。だが、社会環境の大きな変化は、学校教育の中の体育と課外のスポーツ活動を極端に弱体化させ、極端に悪影響の大きい入試制度だけ残ろうとしている。伸びざかりの十七、八歳の時代に見られる体力の落ち込み現象や、各種の精神障害、肥満児が目立つようになっており、早く手を打たなければならぬ事態であることはいうまでもない。運動不足が原因で肥満児がふえていいると言われている。肥満してからその対策を考えるよりも、肥満児にならないように運動を積極的に行わせることを考えなければならぬ。体力に応じてトレーニングを行い、運動クラブ、スポーツ少年団等で運動の強化に努めなければならぬ。今日、市において待望であった一中跡地を市民運動場として整備し、六月十二日竣工式後毎日のように利用されておりますが、また藤原運動公園について御質問いたしますが、市民運動場とはちよつと性格が違ふように承っておりますが、県の計画では南房総開発の一環として南房バライス、野鳥の森等の関連において建設しようとするものであると聞いておりますが、財産の取得の目的は運動公園用地十七万四千二百・九一平方メートルですので野球場はぜひとも計画、整備していただきたいと思ひます。日本は学校体育が進んでいるが、ドイツは地域スポーツが盛ん

である。これは学校体育が貧弱で、学校でスポーツができないから地域でやむを得ずやっているのが現状である。それぞれの国によって歴史、文化、風土、生活が違い、それぞれ違ったスポーツ振興方式があるわけで、日本においても千葉県と鹿児島県ではスポーツ振興が違ふように、地域スポーツの振興策はそれぞれの地域社会の特質に応じてとられるべきであります。地域のことを知っているのはそれぞれの体育指導委員であり、地域の実情に応じて活動しておりますが、体育指導委員制度昭和三十二年次官通達により設置、都道府県教育委員会に置かれ、県で委嘱する。昭和三十六年スポーツ振興法が制定され、現在四万人以上あり、体育指導委員はわが国の社会体育の第一線の指導者であり、非常勤の公務員であり、スポーツに対し深い関心と理解を持っておりますが、県下におきまして千七百九十六名、他市におきましては、千葉市におきまして四百九十九名、船橋市百三十五名、市川八十五名、習志野三十九名、八千代市十八名、市原市六十名、松戸市八十名、わが安房地方におきましては百二十六名中、館山市は十五名であります。鴨川市におきましては人口三万二千人に二十名の体育指導委員が委嘱されております。鋸南町には十二名、富山町八名、富浦町五名、三芳村五名、白浜町十四名、千倉町十五名、丸山町六名、和田町十一名、天津小湊町十五名このように任命されている体育指導委員であります。この規則はスポーツ振興法昭和三十六年法律第四百一十一号第十九条の二項の規定により、第三条体育指導委員の定数は十五名とするとありますが、昭和三十七年四月二十三日以降三十九年三月三十一日まで、当初は八名であったのでありますが、三十九年四月一日以降、十五年前と同

じですが、館山市の体育指導委員を二十名に増員するお考えはないのか、市長さんにお尋ねいたします。

以上、四点につきまして、御質問申し上げます。

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) 近藤議員の御質問にお答えをいたします。いま、十分聞き取れないところがございますので、もし漏れしましたら、再答弁をいたします。

館野、九重地区の水道設置の件でございますが、御指摘のとおり館野、九重地区には現在水道はないわけでございます。地域の方々が大変お困りだという実情はよくわかっておりますので、本年度水源調査を実施いたしまして、それによりまして計画を立てていく。そういうことにいたしているわけでございます。その調査は七月に入りましてすぐ実施をいたす予定でございます。

それから、第二点の市道の舗装と園場整備の関係についてでございますが、園場整備地域内の市道舗装については、館山土地改良事務所及び安房中央土地改良区と協議をいたしまして、舗装計画を進めている段階でございます。園場整備区域内の支線道路の碎石、舗装については土地改良事務所に要請いたしました。実現できないというのが現状でございます。これを全部市の原材料交付で整備するのは面積が広過ぎまして困難でございますので、小規模土地改良事業で計画をしていただきたいというふうに考えているわけでございます。

先ほど、黒川議員の御質問にもお答えいたしましたけれども、原材料交付というのは本来軽易な補修を目的といたしているものでございますので、本年度も現行どおり行っていきたいと考えて

いるわけでございます。

それから、保育園と幼稚園の園舎関係これは教育委員会への御質問のように受け取りましたので、教育委員会の方からお答えをいただきたいと思います。

それから、社会体育とスポーツの振興についてでございますが現在の体育指導委員十五名を二十名にしないかと、する気持はないかという御質問のように受け取りましたが、現在の定数をそのまま継続いたしたいというふうに考えているわけでございますが本来体育指導委員の主要な役割は、実際に体育の実技指導を行うということよりも、むしろ体育の振興計画を立案し、組織づくりをするいわゆる企画事務にあるのでございますので、当面定数増加の必要はないというふうに考えているわけでございます。

以上、御答弁申し上げます。

○教育長(安田豊作君) 第三の九重保育園と幼稚園の園舎計画についてお答えいたしますが、現在九重地区には小学校、保育園、幼稚園、三つ特に本年度体育館を建てようということでマスタープランを、全体計画をいま依頼中で、近くでき上ってくると思いますが、途中連絡を得ている段階においては幼稚園約二百平米、保育園約四百平米を鉄筋コンクリートづくりで別個につくるというふうに考えております。もちろん近づけて連絡といいますか、お互いに協調し合うということについては十分考慮ははらっております。以上です。

○一番(近藤好雄君) 水道の水源調査でございますが、七月から始めるといいますが、それにつきましてはどのような方法でやるのか。

二番目の市道でございますが、舗装でございますが、原材料の七万円では少ないと思いますが、市長さんは以前に、さっき申しましたとおり三百万円の原材料のほかにそれを追加して出すということをはつきり聞いておりますが、この点をもう一度。

それから、保育園のことでございますが、水道は引けなかったら、浄化槽につきましてはどのようなお考えであるか、それをはつきりお伺いしたいと思います。

それから、体育指導委員のことでございますが、隣の鴨川市の場合、人口三万二千の人口であります。二十名の体育指導委員が設置されておりますが、十地区におきまして各地区から二名ずつの体育指導委員を出して、うち一名は女子であって、これは各地域において体育の振興に当たっておる。館山市では十五年前といまは同じであるということは、やはり市民憲章の第一に体力づくりということがありますが、市長さんこれにつきましては再検討できないでしょうか。お願いいたします。

○水道課長(庄司利光君) 館野、九重地区の水源調査の方法につきましてお答えいたします。

調査の方法としては、表流水と地下水両方があるわけでございますが、これは地質調査あるいはボーリング調査これによりまして、さらに現地調査をいたしました上で、その結果一応コンサルタントに委託する。そういうことで考えております。

○市長(半沢良一君) 道路補修の件でございますが、材料交付の分としては三百万でございますが、災害復旧という名目で三百万取ってございますので六百万ということになります。そちらの方からも補修用に回わすと、そういうことでございます。

体育指導委員の件でございますけれども、先ほど御答弁申し上げましたように、体育指導委員は体育の実技を指導するということよりも、振興計画、組織づくりといったような企画事務に当たるのが本来の性格でございますので、これ以上増加するということは、やはりほかの体育団体等も指導者の活動と競合するようなおそれが出てまいりますので、本来の仕事に専念するためには企画十五名で十分だというふうに考えておるわけでございます。

○教育長(安田豊作君) 幼稚園の建築は非常に急がれているわけでございますけれども、小学校の建築はどうしても五十六年以降にならざるを得ない。というのは敷地の買収は済みましたが、耐力度検査を昨年度実施いたしましたけれども、小学校の建物は三十五年ですかに建てたんで、まだ二十年たっていない。二十年たないものを危険校舎の検査をしたことはないという県の方から技師が来て言ってるわけでして、少なくとも五十六年を過ぎたあとで検査してもらわざるを得ない。それまでの間に水道が間に合ってもらえればいいなという考えは持っておりますが、それがない限りにおいては井戸水、地下水を利用する以外に方法はないのではないかと、こういうふうに考えております。

○一番(近藤好雄君) 水道のことは了解しました。

三番目の幼稚園の計画であります。いま体育館の脇に赤線の道路がありますけれども、そこに体育館を建ててみませんか、手続はなさっておりますか。お聞かせ願います。

それから、体育指導委員でございますが、市長さんは体育の振興と言われましたけれども、それにつきまして、体育指導委員もばらばらであるから、いまここで社会体育の諸問題につきまして

これから研修あるいは体育の向上を図っていきなりたいと思いますが、たとえば、県に派遣する体育指導委員であります、これらの研修会とか、あるいは全国大会、関東大会に派遣される体育指導委員であります、これにつきまして予算は取れないでしょうか、その点をお伺いします。

実は、六月十一日に北条小学校で九時三十分から五時半まで体育のスポーツ指導者実技講習会をやりましたときに、八十五名の参加者がありました。非常に各地域のスポーツに興味のある方がいらしておったんですが、また六月二十二日から二十三日、二日間、にわたりまして群馬県の前橋市に関東大会の指導委員研修会があるんです。これはいままでは私個人として出ておりましたけれども、今回一応出しておきましたんですけれども、体育課の方に関きますれば、予算が取れないからということでありましたんですが、私は代行者をこそうと思っておったんですが、予算が取れないということでは係長がわざわざ家にまいりましたから、今年度は了解するからということでありましたが、次に十一月の十六日から十八日全国大会が鬼怒川で行われますが、この方につきましては市の方の予算は取れないかどうか、お聞きいたします。

○教育長（安田豊作君） 幼稚園に關連して体育館の位置の問題ですが、いまマスタープランをお願いしていますが、現在の段階においては拡張した土地の西側、プールに並んで体育館を考えている。したがって、小学校校舎を中心にして西側に体育館、東側に幼稚園と保育園というような考え方で並ぶのが体裁もいいんじゃないかという考え方で、体育館は一応プール側にという考え方でございます。

続いて、体育指導委員の派遣旅費の問題でございますが、予算編成の段階でそこまで計画が持てなかったようでございます。もう少し検討させていただきたいと思ひます。本年度間に合わなければ来年度どうするかを含めて検討させていただきたいと思ひます。

○一（近藤好雄君） これから体育振興にさきだつて、体育指導委員は市のスポーツとか、体育振興に邁進するつもりでおりますが、そのようなことを含めまして、よろしく願ひします。了解いたします。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、一（一）番議員君の質問を終わります。  
次、一（一）番議員 流山源次郎君。

（一（一）番議員 流山源次郎君登壇）

○一（一）番（流山源次郎君） 私は、昭和五十三年度の六月定例議会について、次の四点について質問いたします。

ただし、先ほど二、三の議員さんから水田利用再編成等、それから転作による質問がございましたので、ダブリますので割愛いたしまして、再質問等で質問したいと思っております。

現時点において、食生活の変化とともに米飯消費者の減少による在庫の増加は今後ますます多くなると思ひますが、これによりまして、比例的に生産農家に対しますところの減反強化はますます多くなることが考えられますが、この米の消費増加のために米飯給食をふやす考えはどうか。

次に、農業とともに戦後食糧不足の日本再建にかけた一次産業の水産業にとって、経済復興のために若い労働力を失ひ、さらに工業発展のひずみを受け海の汚染、漁場の減少を来し、今日まで

まいりましたが、現状の続く限り将来にまことにさびしい限りでございしますが、このままでよいものでしょうか。

これから、二十一世紀にかけて世界の人口の増加による食糧危機説が叫ばれておる現実に目を向けて見た場合、日本人の主食たん白質の核を守るのには第一次産業における農業、漁業ではないでしょうか。それを考えた場合、この労働力は右から左にできるものではなく、他の産業以上に特殊の労働条件、労働技術を必要とすることを考え、いまから五年、十年先の農漁業の後継者育成は急務ではないでしょうか。

特に、漁業後継者の場合、海上労働ゆえに少しでも海になじむことが先決ですが、市教育委員会として漁業後継者育成についての具体策はあるのか、当然、漁業に関しては漁協がその指導機関にほかならないけれども、教育関係者の協力がなくては如何ともならないと思いますが、漁協と連絡をとり漁業教室等の参加を時間をかけて、水産業を知り、海を恐れない若者の育成についての考えはないか。

次に、第三点は、土木行政の指導強化と道路等の整備、再編成についてお尋ねいたします。

昭和四十九年九月十五日突然船形地区を襲った出水事件は、無計画な不動産業者の明らかな失敗であり、その後しばしば起こる出水は、排水工事計画の改善を農業委員会を通じ、再度再四業者に要望せしも、いまだに解決をみてないのはなぜか。

また、半農半漁の方たちが大事に使用していた畑、ある日突然不動産業者の転売計画に協力しなかったことにより、道をつくられ、耕作しようにも道をふさがれ、子供たちのために宅地と思え

ども、埋め立てのダンプさえ入れず、あとはその不動産業者に安く買いたたかれるのを待つ以外にないという被害が起こっておりますが、農業委員会等におきましては、この弱者を保護する規制というものはないかどうか。

次に、道路公図再編の件ですが、旧町村合併時に引き継ぎの不備等によって、現在の館山市としても執行者の立場として大変困っていることでわかりますが、市民もまた道路に提供した宅地がいまだに固定資産税を取られ、またりっぱな市道として海岸道路が完成されても、その国に対する認定作業が完了してないために、すでに一部落をつくっておる住人が公用廃止のための申請をしても、申請事務の不備をつかれて戦後三十年たった現在においてもいまだにどうしようもないという現実でございしますが、これに對しまして、新しい現実に合った市の再編成は考えられないかどうか、お尋ねいたします。

市の努力により、館山市の中心部の道路、橋梁整備は大いに進み、市民生活の上に大変役立っておりますが、その半面におきましては、農村地帯の整備は遅れておる。これは市民平等の立場から一日も早く整備対策を考えるべきだと思いがどうですか。

最後に、公民館、青年館に対する社会教育補助についてお尋ねいたします。

館山市が特に力を入れ、社会教育活動の基点として公民館、青年館が市内各地に存在することに対しては敬意を表するものですが、それらの内部向上を図る上からも、図書配布についてどのように考えがおりますか。

さらに、青年館等における破損補修や不備な個所の補修費の受

益者負担の原則による地元町内会の負担となっており、市の補助はないんですが、現在、各町内会においては消防後援会費を初めとして、道路等の公共補修地元負担金、寄付金として、また町内会運営費としての会費徴収は年間六千円から一万円も市民税以外に徴収されておる現状を考えまして、その上、青年館等の整備も地元住民負担となるため、市民サイドから見た場合、非常に苦痛でありますので、この際青年館等の補修費の一部市費負担は再考できないでしょうか。

また、公民館に設置さるべき電話、外灯等は市費でまかなえぬものか。

以上の点について明快な回答をお願いいたしまして、第一回の質問を終りたいと思います。あとは再質問において行いたいと思います。

#### (市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) 流山議員の御質問にお答えをいたします。

御質問の第一点は、米飯普及策の一つとして学校給食の米飯給食をふやしたかどうかという御質問でございますが、現在給食センター管下の学校におきましては、米飯給食を週二回実施してあるわけでございます。米飯給食に関するアンケート等を見ても週二回を希望する児童生徒の数が一番多い。文部省の指導目標も週二回を目標にしているわけでございます。そうした事情から、週二回が適当な回数だろうと考えておりますので、いまのところ、週二回をふやすということは考えておりません。

それから、水産業の後継者育成について、漁協との連絡を密にして漁業教室を開催し、中学生、小学生に参加をさせる考えはな

いかということでございますが、農業、水産業後継者の育成ということについては全国的な問題でございます。当市におきましても、もちろんなおざりにできない問題ではございますが、漁業教室の開設ということについては、やはり児童生徒の希望、保護者あるいは地域、学校からの強い要請があった時点においては、関係機関と連絡をとり検討をいたしたいと、そういうふうに考えております。

現実に、他地域で開催しておる場合に、その事業主体は漁業協同組合であり、教育委員会、学校による企画の例がないのが実情でございます。

市の教育委員会としては、未来の水産業を守る漁業者育成のため独自の教育方針はあるかという御質問でございますが、地域の実態や要請に即した教育計画の編成については従前から問題にされている点ではございますが、特定の職業につくための準備教育に重点を置く教育方針というものは設定をいたしていませんのでございます。

小中学校の教育の目的は、初等、中等普通教育を施すことにございまして、社会に必要な各種職業についての基礎的理解態度を身につける。そういう現状の教育が妥当であるというふうに考えております。

不動産業者への指導及び許可について、これは農業委員会への御質問のように思いますので、そちらの方で御答弁を願います。

それから、第三点の土木行政の指導強化と道路整備の更新についての小さな二の御質問道路公園等の再編成を行う考えはあるかという御質問でございますが、現在道路公園についてはおおむね



正常に整理されていると思われませんが、諸種の原因で一部未整理のものも見受けられますので、これらのものについては過去のいろいろないきさつ、現況の把握、地権者の同意等非常に困難な問題を抱えているわけでございますが、逐次調査をし、個々に解決を図って徐々に整理していきたいというふうに考えております。

小さな第三点、市街地の道路、橋の整備状況に比べて過疎地帯の整備が遅れているんじゃないかという御質問でございますが、農村地帯についても主要道路は大方舗装されておりますが、なお生活関連道路について未舗装のものもございますので、これは逐次年次計画に従って舗装を進めておりますし、今後も進めていくつもりでございます。

大きな第四点、青年館、公民館の育成及び補助についてということでございますが、青年館、公民館について圖書の配布について、あるいは古い青年館の管理上の経費の補助あるいは電話、外灯等の設置を市費でやるべきではないかという御質問でございますが、公民館につきましては、圖書の配布は各分館では常時勤務者がおられますので、圖書設置や整備は特に考えてはおりません。ただ、館山分館だけは常勤者がおりますので、図書館の配本を受ける停本所ということになっているわけでございます。

電話、外灯の設置でございますが、まず電話の設置につきましては、現在館野分館と九重分館に新設準備中でございますが、それ以外は、七館は全部設置が済んでおります。外灯につきましても、各分館が大体が表通りに面しておりますので、特段の希望は現在ございませんが、ただ船形分館は防犯灯として一基設置を予定いたしております。

青年館につきましては、圖書の配布につきましてはこれは現在のところ考えておりません。

それから、古い青年館の管理、維持に要する費用の補助の問題でございますが、これも補助は考えておりません。ただし、建設以後人口、世帯数が急激に増加というなどの特別の事情があるため、管理委託者が増改築を希望する場合には、応分の補助を考えなければいけないのではないかと現在考えております。

それから、電話、外灯の件でございますが、これは市費による設置は考えておりません。ただし、外灯につきましては防犯上必要な箇所についてはもっと設置を考えたいというふうに考えているわけでございます。

以上、御答弁を終わります。

○農業委員会会長（秋山万次君） 三の一に対しまして、流山議員さんにお答え申し上げます。

不動産業者の指導及び許可についてでございますけれども、農業委員会と不動産業者は関係があるかのように一般の方は考えのようでございますけれども、御承知のとおり、不動産業者は土地、建物、不動産一切を扱っており、そのうち農地を扱う場合は、農地法による種々の規制があるわけであります。都市計画法附則第四項の政令に定める規模、本市におきましては三千平米以上の宅地造成をする場合にのみ業者は農地を求めることができるのでございます。この面積以下は業者が売買することはできません。現状におきましては売り主、買い主のあっせんをするというケースはあるようでございますけれども、個々の転用につきましては権利者、義務者双方の申請でありまし

て、直接業者の関係はありませんので、あつせん方法等の細かい点につきましては存じておりません。しかし、業者のあつせんによりまして付近に支障が生じた場合は、関係者と十分協議いたしまして、円満に解決するよう指導していきたいと思っております。

なお、船形の成田屋工務店の造成に關しましての御質問もあつたようでございますが、これにつきましては経過を事務局長の方から説明したいと思ひますけれども、御了解いただきます。

（「名答弁」と呼ぶ者あり）

○農業委員会事務局長（石原 斉君） 流山さんの御質問の成田屋工務店の造成地から排水されます水の被害これは再三御質問を受けております。

そこで、昨年の九月に御答弁を申し上げておきましたんですがその後の経過を簡単に申し上げてみたいと思ひます。その後も農業委員会といたしまして造成いたしました成田屋工務店、それから土地を売りました農業協同組合この両者の中に入りまして、たび重なる仲介の勞をとつてまいりました。ところが、御承知のように景気の低迷から成田屋工務店は非常に財政的に窮屈になつてまいりましたような事情もありますし、さらに農協と成田屋さんとの土地売買の契約内容について非常に意見の食い違いが出てきているわけでございます。

そこで、結果的にはあその土地が商品化されてない、されないうというのが一番の問題点になつてゐるわけです。あそこは自然公園法の特別区域になつておりまして、ほぼ造成が完了した段階でクレームがついて今日に至つてゐるわけです。もちろん私も

実害があるという事実に對して、行政としてはできるだけの努力をしなくては行けない。こういうことで、市の方からも設計書をつくり、仕様書もつくつてこういう計画でやつていただきたい。そのように書類も相手方に渡しまして善後策を講じてまいりました。そういうような経過がございますけれども、いま言つたような事情のもとに現在その工事が行われてない。こういう事実でございます。もちろん、その事実に対してわれわれは放置していくという考えはありませんけれども、とにかく農業委員会サイドとしての努力は今後も続けていきたい。このように考えております。一〇番（流山源次郎君） 水田利用再編につきましてお聞きしたいと思ひます。

私も農政審議委員の一員といたしまして、市からこの三月議会において農民を救うべく早急なる対策を立てるべきであるという議会要請に對しまして、市の農水産の方でも館山市独自の九項目の水田利用対策を打ち出してまいりましたが、それを審議委員の中で特にまた人選をいたしまして、数名によるところの代表の委員によつて審議をされておつたのでございますが、現在米の田植え時期も迫つておるし、そういう関係上早急にこれをやろうといつても非常に不可能性があるということと、それから農業改良普及事務所といたしましても、現在すぐ変わった種つけとかそういうものをやつても、農家が収益を上げる確実なものは現在見当らないというのが説明の一環にありましたし、また大地主ならぬにかく幾つかの農家が集まつてそこに減反分をやつた場合には、農業の散布また湿田の脇にやる作物というべきものは農家の方でも見当らないという非常にハンディが出てまいりまして、さらに

豊房地区におけるところのイチゴとか、また神戸地区の洋菜、九重地区におけるところのハス等のものは、すでにもうある程度の農家の方がそこに手がけておまして、これがいいたいということとで皆が始めるということになれば、自然に市場の値くずれとかそういうものを考えた場合に、これは不可能の問題であるという結論が出されたものでございます。

そういうものを加味した場合に、とにかく今年度は市にお願いたしまして、農家の救済としては現在水田が終って裏作ならばある程度自分たちの収益を上げることもできるんではないかという線も打ち出されまして、九項目の中の四項目を採用し、その中に補助金を今年度だけはそういったことで市に二千元の上乗せをお願いして、そうして来年度次の段階とかそういうものは農家自体で新しい農業の再編、また集団のいろいろなそういった問題を取り組んで行こうという気持ちをもって、市長に対して農政審議会の意見をぜひ今年だけは市長さんとしても大きな市費の予算を使って二千元の上乗せということは非常に苦痛なことがございました。ところが、農家の苦痛を救うためにしてもらいたいということの申し入れを行ってあったのでございますが、先ほど市長さんの答弁を聞いておりますと、いま考慮中だと。すでに四月時点において再度市長さんに農家の苦痛に対して、またわれわれ視察いたしました大和郡山市等におきまして五千円の上乗せを実行すると市では証言しておりますが、そういうこともありまして、今年はどうしようもないということで、今年のみという期限をつけましての上乗せの申し入れが、いまだに市長さんの考慮中であるということに對しましては、市長さんは前向きであるのかどうでしょう。

うか、その点につきまして、市長さんの答弁の許せる範囲で回答をお願いしたいと思います。

○市長（半沢良一君） 先ほど、石井議員さんにお答えいたしましたように、転作促進の関連事業といたしましては、五つの問題について検討をいたしているわけでございます。これらを総合的に考えたい。そういう意味で、検討中と申し上げたわけでございます。特に奨励補助金だけについてここで答弁は差し控えたいと思います。

○一〇番（流山源次郎君） 市長さんの答弁で了解いたしましたと思います。私もといたしまして、自分から商売で失敗したとかいう、そういうことでなく、国の政策の一環としてこういうものを押しつけられた農家というものを考えた場合には、市長さんとしても前向きで今後検討していただきたいと思っております。

次に、米飯給食は一週間に二回ということがそれぞれ文部省の指導方針とかそういうものにおきまして、これ以上ふやされないという答弁でございましたが、再度質問いたしたいんですが、現在パンをつくっておりますが、再度質問いたしまして、米の炊き出しをやっておるわけでございまして、そのコストがパンをつくるコストよりもそれを利用した場合高い。そういうことをかみ合まして無理にそれをふやさないということで市の方では週二回ということを言っておるのではないかと。

それからいま一つは、さらにアンケートを取った場合に、週二回がいいという回答でございますが、われわれ実際問題といたしまして、生徒児童に会って話を聞いても、われわれの聞く範囲では米飯の方がいいということが多いんです。ところが、アンケート

トを取るとパンの方がいいと、結局パンはいまだに家に持ち帰り、が相当あるんですが、これはすれ違いになる問題ですから、あまり追及はしませんが、昔は海軍等におきまして、あれだけの人数の米を大量につくったことがございますが、米は米そのものを専門につくった方がコストも安く上るし、米の消費そういうったものをふやすということに対しては、農林省等の奨励していただきますに合致するんじゃないかと思う。こういう点についてはあくまでも文部省の達しが週二回だからそれ以上進められないのか、その点に対して回答を求めたいと思います。

○教育長（安田豊作君） 二回を妥当としている理由ですが、文部省の目標が二回ということと、それから現在米飯給食を一週一回でもいいからやるといふのは全国的に見て数県なんです。その数県の中に千葉県が最も右翼の中に入っている。その中で全面的に週二回やるといふのが館山市でございます。よそは中学校の給食は全校やるといふのは少ない。小学校は全校やっていますが、そういう状態の中で給食自体が非常に進んでいるんだということ、米飯の進め方も全国的に見て館山市は進んでいる。そういうことから妥当と言っておるんであります。五十三年度週二回ですから七十六回予定しております。そうして全米の消費量が六十八トンが生徒の消費量です。これを館山市の子供が五十六トン消費する。こういうふうなことでございます。

それから、三回にふやすには炊飯料が高いからと、昨年は設備容器的買収費、その他がありました。今年はその点は昨年よりは幾分安くなっております。ですから、パンと比べてほとんどトントンだということです。ですから、経費的にはパンにするのも

ご飯にするのも、パンとご飯だけならば同じでございます。ただし、栄養的に米を食べますとビタミンAとBが少くないわけでした。これを補給するため、要するに副食を工夫しなければいけない。そうすると、現在給食費を上げない方針でありますので、この給食費にも響いて来ざるを得ないというのが現在の考え方であります。

それからもう一つは、フレンドベーカーリーで週二回やるということは、全体をA、B二班に分れてやりますから、フレンドベーカーリーとしては四日間炊飯をやっております。三回やるということとは六回やらなければならぬということ、その点が能力的にやや困難だ。そういう点と、子供の嗜好の問題これはアンケートの問題がここにありますけれども、このアンケートの統計から見ますと二回が最高でございます。その次が一回でございます。三回というのはその次の段階の数になります。あるいはいまは子供は喜んでおりますけれども、三回になればいやがる子供も出てくるということも考えて、二回で本年はやろうと。ですから、来年度になって三回になるかどうかはまだ、アンケート、その他で検討はしたいと思っております。絶対二回でとめようということではございません。

○一〇番（流山源次郎君） 先ほど、市長さんの答弁の中で、学校教育は特殊のものは取り入れるべきでないということの回答もございましたが、これは時代の流れとして、いまこういうものを持ち出しては笑われるかもしれませんが、船形町といましては館山市に合併する以前は漁業を中心として動いておった町でございました。そのときに船形の小学生は、学校自体が通船を持ち、

これを正課といたしまして、児童に海というものを親しませてお  
ったということを学校自身で現実に行っておりまして、われわ  
れもその学校生活をしてなじんできた経験があるのでございます  
が、極端にそこまでやらなくても、何か地域に、漁業なら漁業に  
合った地域はそういったある程度特定の教育を盛り込んでいいん  
じゃないかと考えるんですが、その点はどうでしょうか、もう一  
度お願いしたいと思います。

〇教育長（安田豊作君） 教育内容の問題になりますから、教育編  
成の仕事は学校長にまかされているわけでございます。それを指  
導するのは教育委員会になるかもしれませんが、教育課程を編成  
するに当たっては学習指導要領というものがありまして、一年間  
に中学校の場合ですが、千百九十時間を指導すると、こういうふ  
りに言われておるわけです。その中で選択科目というのがあるん  
です。その地域に合った教科を選んで勉強する。その中に英語と  
一般に言われている職業科目、この中には農業、工業、商業、水  
産、家庭というのがあるわけでございます。

ですから、地域に合ったという事でいけば、その中の水産の  
科目を選べば一週間に四時間以内、年間百四十時間選ぶことがで  
きるわけです。しかしながら、実情を見ますと、指導はいろいろ  
の面から十分しているわけなのでございますが、その百四十時間  
いっぱいには英語を選択、したがって職業科目を選ぶことができな  
い。これは館山市だけか、あるいは一中だけか、二中だけか調べ  
て見ましたら、千葉県全部がそうです。文部省は英語は一週三時  
間を平均とするという指導をとっております。私ももうそういう  
方針でやっておりますが、父兄なんかと相談しますと英語をせい

いっぱい、入学試験には高校も、大学もみんな英語が試験科目に  
入っていますから、これでもその地域の子供が英語の試験が劣っ  
てくる。その英語をさいて水産の勉強をやるかということになり  
ますと、これは非常にむずかしい問題でありまして、一人一人検  
討してみましたけれども、水産の勉強をさせた方がいいたろうと  
いう子供は、ひいき目に見ても一人か、二人という学校の先生方  
の考え方のようでございます。

ですから、水産教室というのは、漁業協同組合が県の補助金が  
あるそうですから、そういうものを開いて、時間外にやってみるよ  
うです。千倉と銚子がやってみようでございます。

これからの漁業者は、やはり水産高校ぐらい行かなければ自営  
の漁業ができない。そうすると、むしろそこに入るものの方が漁  
業経験をするよりも、英語の勉強をして水産学校に行った方が漁  
業につくにしても大事ではないかというのが一般普通の方の考え  
方、学校側もそういう考え方になっておるようでございます。

〇一〇番（流山源次郎君） わかりました。

一応、第一次産業の現況におきましては、これ以上のことは申  
し上げません。また将来ということを考えれば、今後何かの機会  
に前向きに取り組んでいただきたいと思います。

きょうは、せっかく各委員会の方々お見えになって、私が惜ま  
れ役でちょうど農業委員会の委員長が見えておるところでこの問  
題に取り組んでしまったということですが、再質問ということに  
なりますが、先ほど三千平米以内の問題で、結局転売のもの以外  
は、そういうたことに対しては口をつけれないということでご  
さいますが、現実として現地を見てもらえばわかると思いますが

すてにもう三千平米とか、そういう問題は越した問題が公然として行われてゐる現実なんです。畑ですから、当然私どもの方としては農業委員会の管轄にあるんじゃないかということで質問したわけです。それにつきまして、今後そういう二度とこういうことがないような、何か農業委員会としての感想を一言お願いしたいと思います。

○農業委員会会長（秋山万次君） 先ほどお答えいたしましたのは業者の扱い得るものは三千平米以上の農地となっております。それ以下は業者は関係ないわけでございまして、先ほど申し上げましたとおり、農業委員会に申請になってくる書類は、いわゆるその間にあつせんはとっただろうということばかりですけれども、申請の書類は権利者、義務者でもって双方捺印して申請されておると、それに基づいていろいろの公害問題が起こらないか、農地に支障がないかというような細かい点まで調査いたしました。農業委員会の事務局は申請書を受理しているわけでございます。

さらに、会議を持つ前に事務局の職員が現地に行つて現況を確認して、申請書に基づいて支障があるか、ないかということを確認して、それで一件一件事務局の職員が農業委員会に説明して、それによって農業委員会が支障がないと認めた場合は承認するということをやつておるわけでございます。よろしくございますか。

○一〇番（流山源次郎君） 以上をもつて質問を終わりたいと思います。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、一〇番議員君の質問を終わります。次、一五番議員辻田 実君。

（一五番議員辻田 実君登壇）（拍手）

○一五番（辻田 実君） 最後になりましたけれども、四点にわたつて御質問を申し上げたいと思います。

まず第一に、沖の島観光開発について御質問を申し上げます。思うわけでございます。館山市の観光並びに市民の憩いの場としての決め手になるようなものがなかなか見当たらないわけでございます。するけれども、そうした中において、今回青年会議所が十周年事業といたしまして、市民の憩いの場のシンボルになるようなものを一つつくろふじゃないか、こういうような発想のもとに市民からのアンケート、こういうものをもとにして沖の島がいいだろうと、こういうふうなことでいろいろと作業が進められたわけでございます。

これにつきましては、先般の議会において矢野議員等からも若干の質疑があつたわけでございますけれども、先般この青年会議所がいろいろと調査研究をあらゆる角度から、また広い立場からなされた結果をスライドにおさめまして、非常によくできておるわけでございます。そうして若い青年会議所の諸君が真剣に取り組んでいる姿を見て、この問題は何とかたえてやらなければならぬんじゃないか、こういうような感に打たれたわけでございます。

そこで、この沖の島観光開発が現時点においてどのようなものであるのか、この点について市長にその所信をお伺いしたいわけでございます。

沖の島につきましては、これまで何度も開発計画が市議会に対して報告されてまいりました。大きなものといましては、ま

す第一に、いまから十五、六年ぐらい前に西岬、館山地域にかけまして国定公園として指定されるに際しまして、沖の島がその中の目玉の一つとして開発されたわけでございます。当時沖の島には東屋とか、展望台とか、さらには中央部面の森林地帯が開発されました、一つの広場にもなるというような形の中でもって、ちょっとした夢の島的な状況というものがかもし出されたことは事実でございます。

二番目には、本間市長が打ち出しまして、都市診断をいたした中において、沖の島の観光開発が千葉大学の清水教授の調査結果というようなかっこうの中でもって、ある程度の方向性が出されておるわけでございます。

三番目には、中央の政財界の人たちがつくっておりますところの同友会というものが、数十億の予算を投資いたしまして、海洋公園をつくるというようなことでもって、市議会の全員協議会の中におきまして、非常にりっぱなモデルというんですか、持っています、見てすごい構想のものだなということで、模型を持って来て見せましたんですが、その話もいつの間にか立ち消えになっておるようでございます。

そうして、今回青年会議所が前三つのものをむしろ集大成するような形の中でいいところを取り入れ、非常に経費的に困難なものを取り除くかっこうの中で出てきておると、こういうことでかなり見るべきものがあるのではないか、このように思っておりますわけでございますけれども、過去こうした計画が市議会の方にも報告されてまいりましたけれども、こうしたものがどうして今日挫折してしまったのか、その点について市はどのように考えておる

か、お伺いしたいわけでございます。

どうして挫折したかということでございますけれども、一つは、私が十五年ほど前に都市計画審議委員をやっておるときに、船形線からずつと館山を通って鷹の島、沖の島これを経て大賀地先に回わるころの都市計画道路、この道路はずつと海員学校を迂回して沼から真倉を通って、そうして南高校の手前に出る都市計画線という形でもって設定されました、千葉の会議に出てそのことが諮問されたことを記憶しておるわけでございますけれども、その後館山の航空隊が強化されるに当たりまして、沖の島から大賀海岸に至るところの道路面は軍用地ということでもって廃止されると、こういう経過に至ったわけでございますけれども、それ以降沖の島に通ずる道路の整備がほとんどなされず放置されておる。同時に、沖の島に設置されましたところの展望台とか、東屋とか、中央の広場は草のはえほうだいということで、ほとんど手も入れたことがなかった。今回青年会議所の諸君が勤労奉仕という形の中でもってかなり掃除をして、初めて元の公園らしいような形になったわけでございますけれども、いままでもう一回うわけてこうした状況に放置されておったのか、この点について経緯を明らかにしていただきたいと思うわけでございます。

第二番目に、里見史料館建設についてお伺いしたいと思うわけでございます。

先般、一八番議員の質問に対しまして、市長は今日里見史料館としての城をつくる意向が全くございませんので、またそういうようなことについて具体的に聞いておらないので、これに対するところの答弁、これはこれ以上ありませんというようなことが言

われたわけでございますけれども、この点について私はもう少し深く市長の考え方を求めたいと思うわけでございます。

この里見史料館建設の促進会ができて、新聞等にも報道されておりますし、また町内会長、全議員がそこに名をつらねてあるわけでございます。もちろん名をつらねておるといいまして、一八番議員も全く知らないままということでございます。私も知りませんでしたけれども、しかしながら、知ってる、知らないはこの際別にいたしましても、一応計画書なり、趣意書というものは見ることができたわけでございまして、その中には私は郷土の史料を後世に守り伝え、長く保存していくというようになるとについては、これは非常に大切なことだろうと思うし、このことはしていかなければならないというふうに思うわけでございます。

しかし、建設促進会の趣意書並びに各種文書の中に観光の拠点としての城山城を建設することが望ましいということも述べられておる。このように思うわけでございます。ここで、史料を保存するということ、観光の拠点としての城山城をつくるということとは一面において競合すれば非常にいいことであるけれども、しかし現実的には競合できないということがあっても、観光としての城山城のものについては別としても、史料を保存するための運動については、やはり市議会としても郷土の文化財を守るという観点から何らかの形でもって考えなければならぬじゃないか。このように思うわけでございますけれども、こうした点についてはどのように考えておるのか。

特に、私はここで質問いたしておきたいことは、いま町内会を

通じて、ほとんどの町内会だと思ひますけれども、署名運動がいつてゐるわけでございます。市長さんは先ほど城山城を里見史料館としてつくることについていま考えがないというふうにおっしゃられておるけれども、莫大なエネルギーをもってあの署名簿が全市民的に集まった場合にはどうするんだということが出てきます。先ほどの答弁からいいますと、いまお考えがない、町内会がやりたいということやっていった時点で、この市に対する運動を黙って見過ごすことができるかどうかという時点になりますと、一議員といつたしましても、この問題については署名簿は別にいたしまして、市の態度としてどのようにしていくかという一定の方向なり、所信というものを明らかにすべきではないか、こういうふうに思うわけでございまして、その点についてこの膨大なエネルギーをもって署名運動が展開されている点について市長はいかようにお考えになるのか。この点について所信をお伺いしたいわけでございます。

三番目に、雇用安定政策の確立についてお伺いしたいわけでございます。

円高、不況の中におきまして、今日雇用問題は日本の国におきまして非常に大きな政治課題になっておるわけでございます。失業者が百万人を越えてほぼこれが固定しておるといふような状況でございます。

安房郡市におきましては、いまから十五年前の昭和三十五年の国勢調査によりますと、農業従業者が全地域の五七・九%であったわけでございます。第二次産業は一一%、第三次産業が三一一%であつたわけでございます。これが十五年後の昭和五十年



度の国勢調査によりすると第一次産業はなんと三三％に減っているわけでございます。第二次産業は一七％に伸びております。第三次産業が驚くべき数字をもって四九・八％に達してあるという状況になっております。

このことは、第三次産業を中心にして大幅に産業構造が変化していることをあらわしてあるわけでございます。このことの数字から見ましても、いま館山市内におきましますところの賃金労働者の増大等を如実に物語っておるわけでございまして、不況の中におきまして職を求めておるけれども、なかなか職がない。こういう中において、館山市はこうした雇用問題をどのように考えられるか、この点について伺いたいわけでございます。

特に、八十四国会の中におきまして、雇用促進の法案が通過して、地方公共団体に対する臨時雇用創出交付金に関する法律が成立したわけでございますけれども、この法律の内容は、多数の失業者が発生し、雇用の機会が著しく減少している状況にかんがみ地方公共団体に対して臨時雇用創出交付金を交付することにより地方公共団体が行う臨時雇用創出事業の実施を促進し、もって住民の雇用の安定に寄与すると、こういうものでございまして、各市町村に対して特別交付金が交付されるということでございますけれども、この雇用創出交付金に関する法律の要旨をいかように受けとめ、実施されていけるか、この点に対するお考えを伺いたいわけでございます。

四番目に、県の農業経営短期大学の移転について伺いをしたいわけでございます。

千葉県は、農業教育の一元化を目指してここ数年取り組んでき

たようでございます。その中におきまして、中堅青年養成所から一昨年千葉県農業経営短期大学といたしまして、亀ヶ原にあるところの農業教育機関ができたわけでございます。これと、千葉市の農業短期大学校、さらには農業高等学校の三校が統合いたしました。今度東金市に移転することがきまっています。これに対して昨年度県は予算を計上いたしました。すでにその学園都市づくりに着工しているわけでございます。

ここで、私は質問したいことは、農業経営短期大学は養成所以来、昭和二十七年より農村青年の教育の場として、また農業後継者の育成の場として、県下の農業青年に果たした役割は非常に大きなものがあったわけでございまして、卒業生も千七百名に達しておるわけでございます。現在、亀ヶ原の経営短期大学に安房郡内から入っておりますものが十四名、全校生徒が七十名でございしますから、地元から農業後継者を目指す農村青年が入ってくるのも大きな数であるわけでございます。

この農業経営短期大学が館山市に及ぼした影響は、金寮制という中においての雇用問題、それからあそこの職員としての雇用の問題、さらには館山市地域の農家に及ぼす影響というものは非常に大きいんじゃないか、かように思うわけでございます。

こうした中において、あの施設に対して、館山市は設立に対して若干の負担金を出して設立、強化されてきておるわけでございますけれども、これが東金市の方に来年から移転してしまうというふうなことになるという、何かそこに空洞化するんじゃないか。この点について県との話し合いがどのような形でなされてきたのか。そうして向こうに移転した後、あの施設がどのような

に利用されるのか、こうした点について知ってる点をひとつ明らかにしたいだきたいことを質問申し上げる次第でございます。

以上、四点につきまして、詳しく御答弁のほどをお願い申し上げます。質問を打ち切ります。

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) 辻田議員の御質問にお答えをいたします。

沖の島の観光開発についてでございますが、この開発は従来いろいろの形で出てきたというお話でございますが、いずれも私初めて伺いました次第でございます。そのまま放置されてきたその理由、経過等につきましては存じ上げておりませんので、御答弁はいたしかねます。

ただ、青年会議所の諸君が非常に熱意をもって沖の島の開発をしようとしておりますことは御指摘のとおりでございますし、市といたしまして、沖の島に限らず館山市の最大の観光資源でございます海岸線を生かした、海岸線を主体とするというよりも、むしろ海岸線全体を海浜公園化したい。そういう見地からコンサルタントにただいま諮問といいますが、相談をいたしているところでございます。当然その中へは、沖の島というのは一つ中心点になると思いますし、またするようには考えるように依頼してございますので、そうしたコンサルタントの結果が出ましてから具体的に開発について考えたいというふうに考えているわけでございます。

第二点の里見史料館の建設についてでございますが、里見史料館につきましては渡辺議員さんにお答えしたとおりでございます。現在考えていないわけでございますが、御指摘のように館山

城址は先人のわれわれに残しました文化的遺産でございますのでこれらの史料を後世に伝えるということは大変大事なことでと考えております。

現在、昨年、本年また場合によっては来年も含めまして、この調査を行っております。その結果、どの程度の史料が出ますか、また未知でございます。また出てきました史料が史料の価値がどの程度あるものか、そうしたものもまだわからないわけでございます。また史料にはそれぞれ所有者もいるわけでございますので史料館をつくったから、そこにすぐおさめるといふわけにもなかなかいかないと思います。いずれにしても、そういう結果が出てから史料館の建設は考えても遅くない段階だろうというふうに考えます。

また、促進会の方々は史料館即城、そうして観光と結びつけておりますけれども、それが果して正しい考え方かどうかというところは、これは一応別問題だろうと思います。史料館と観光拠点としての館山城というのは、これは別に切り離して考えることもできるんではないかと考えております。どうもしかし、現在の促進会の方々の意見は史料館という名を借りた観光城の建設そこにあるように推測されるわけでございます。おそらく署名なさる方々も、また市民の方々の署名もおそらくそうした形の方にいくんではないかと思えます。市民の大多数の方々がそうしたものを望むということになれば、これはもちろん市といたしても考えなければなりませんけれども、その場合に市の行政施策として果して最重点に置くべきかどうかということは、これはまた当然考えなければいけないことでございます。そういう署名があった

から即座に取り上げなければいけない、やらなければいけないというふうには考えておりません。

第三点、雇用安定の問題でございますが、ただいま臨時雇用創出法という法律が成立したという御指摘がございましたが、実はどうも十分の内容を存じませんので、ちょっと御答弁いたしかねる。まだ内容等についても存じ上げておりませんし、いずれ公布されましたあとでいろいろ労働省、その他からまた御指導いただくことだろうと思いますが、いただきました段階で雇用促進、雇用安定のためにはそれが即市民生活の安定につながることでございますので、重点施策として考えたいと考えています。

第四点の農業経営短期大学の移転の問題でございますが、まことに移転残念なことでございますが、県の施策でございますが、まことにやむを得ない点もあるわけでございます。別に県からのこの移転につきまして正式な相談を受けたことはございませんが移転後の利用計画については、これはひとつ県と十分協議をいたしまして有効利用を図りたい。館山市にとってプラスになるような形でこの有効利用を考えたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

〇 一五番（辻田 実君） 各項目ごとにそれぞれ再質問をいたしたいと思うわけでございます。

まず第一点の沖の島の観光開発についてでございますけれどもこの点について市長はいままでの計画については十分理解しておらなかったで、この点については答えられない。こういうことであるわけでございます。

次の点についてはどのように考えておるかということでございます。

ます。一つは、あそこに施設がもう十五年ぐらい前に設置されたわけですけれども、これはどこで、だれが設置したか。国定公園を推進する当時、館山市が中心になって行ったわけでございまして、その結果、大房そうして沖の島、そうして西岬の国民宿舎とというのができたわけでございまして、国民宿舎ができる前後にあとにのときでございまして、十五年も前のときでございまして、記憶はかなり喪失しておりますけれども、館山市から幾らかの金を支出してあそこに東屋とか展望台、それから腰かけとかそういうようなものについて整備したように思うんですけれども、その後全くなされておらなかったようでございますけれども、この点についての管理はどうなされておったのか。ここ数年の間、あそこ清掃するため清掃費、ごみやなんかの予算は計上されましたけれども、そういった施設のなものについてはなかった。

あそこに御承知のように漁港があるんです。避難港のような堤防があるんです。これはだれの施設でもって、漁港として管理しておるものかどうか。プールのようなものがあるんです。ちょっと堤防の出たものが、これは漁港施設のように思われますけれども、あの施設はどのように管理されてきたのか。

それから、道路の面についてですけれども、これは二、三年前にも質問したんですけれども、あそこ道路は莫大な経費がかかるので、いずれ根本的に考えたい。こういうことで前市長も言っておったわけでございますけれども、今回道路の予算が若干組まれたわけでございますけれども、とにかくあそこ堤防が私が二、

三日前ですけれども、見たところでもって六カ所ぐらい堤防が崩壊しています。道路をつくっても水がちよっとしけになれば道路の中に飛び込んでくるという状態で、とてもじゃないけれども、海の中に道路をつくるような状況を来しております。館山市のブルトーザーがならしておりましたけれども、とてもじゃないけれどもというふうに思うわけでございますけれども、道路の問題についてはどのように考えておるのか。この点について。二点とありあえず再質問したいと思います。

○経済部長（太田博雄君） 沖の島にございます施設について申し上げます。現在ございますのが休憩所が一棟これは昭和四十二年に公園事業として県の方でつくられたものでございます。それから屋外テニールがございますが、これが三基ございます。これは四十二年。それからベンチが五基、便所が一棟これはそれぞれ市が施行してつくったものでございます。

それから、避難港の件でございすけれども、あそこは避難港として別に市の方には登録も何もされてないのが現実でございます。

それから、道路の件でございすますが、昭和四十一年の五月に防衛庁が、現在沖の島に通ずる道路ですが、あれは県有地でございすますが、それを買収したいということで市の方に異論ない旨の副申をいただきましたということが始まったわけでございす。その間、施設局長等といういろいろやりとりの中で最終的に協定を結びましたのが四十一年の十二月十三日に東京防衛施設局長と市長との協定書が結ばれたわけでございす。

その内容といましては、防衛庁が県有地を買収したあかつ

きには、あの護岸から二メートル、それからそれに添いまして八メートルの道路、それに添ったあと五メートル、都合十五メートルになるわけですけれども、十五メートルの安全地帯を確保いたしましたして、市の方に通路として提供することと協定書としてなっておったわけでございす。

その後の動きといましては、防衛庁は県有地を買収しようという計画でございすんですが、今年度もある程度予算を組んだらしいのでございすますが、地価等の変動がございまして、当初予定よりもほんの一部しか買収できない予算だったそうでございまして、その後協定書外に市に提供するものについては防衛庁が買収するということは好ましくないと申しました。必要ないんじゃないかというような意向も多少出てきたような関係もございまして、実は防衛庁と県との話し合いをたぶんきのう持ったと思ひます。二十日に話を持つということとでございました。まだその後の連絡をいただいておりますけれども、その結果によりまして、当初協定いたしました舗装にかかるという現在段階でございす。

○一五番（辻田 実君） 次の質問に入る前に簡単に聞いておきたいんですが、半沢市長さんは前の商工会議所の会頭であつたわけでございすますが、前例にならしまして、現在会議所の顧問とか、相談役とかこういう役職にあられますかどうか。その点についてちょっとお伺ひします。

○市長（半沢良一君） どうも相談役というのは名誉職的な仕事でございまして、相談役を委嘱されたような記憶もございすますが、はつきりいたしません。

〇一五番(辻田 実君) 先ほどの答弁にありましたように、史料を収集した結果、その資料の内容によつては、これをいかに保存するかどうかということは、またその時点で考えなければならぬであろう。こういうようなことについては全く私もそのような考えでありますから、その点については了承するわけでございませうけれども、一面、史料を収集と同時にこの史料ということで保存する史料館、この史料館は同時に館山城であり、この館山城は同時に観光にウェイトを置いたような形でもって運動が進められておるようになって、この点については、見方についてはちよつと本旨からはずれるような面もあるんではないかというようなニュアンスのものがあつたわけでございませうけれども、先ほどの答弁の内容が実際の町内会長とか、いま署名をやつてる人には理解できないんじゃないか、その発言を聞いた場合には何だというような一つの断層というんですか、あれが出てくるんじゃないかというふうに思われるわけでございます。あれを私もよく二、三回見てみたんですが、一面は非常にいい。郷土の史料を集めということでいい。一面には城山城をつくつて観光の拠点が出てくるからどっちがウェイトかわからないものですから、市長さんその面非常によく理解しておるようでございませうけれども、この点については、私は先ほどの沖の島との問題、特に沖の島の問題についてはいままでも御破算になつた最大の原因は航空基地との問題でヘリの発着に伴つてあそこへ無線装置だとか、照明装置をできないとか、沖の島については二階建ての建物はできないとかこういうような制限等があるためにできないということを私はそれぞれ関係者から聞いております。そうしてそのことについていろいろ

な話し合いもいままでも非公式であります。やつたことがあると、それらの中でもって、沖の島等における新しい施設ができることは困難だろうということを私は聞いております。

そのことは、かにた婦人の村においてあそこの裏の山に鐘をつくるのに世界的に寄付が集まつておるけれども、しかし教会の鐘をつくることについて航空法に違反するからだめですやというところでストップを食つておる。これを何とかしなければならぬというところで聞いたら、航空保安法とかいうのがあつて、鐘ですら無線について誘導装置に影響を与えるからだめだということがあつたので、法的には無理だろうけれどもというところで、強行するかどうかということは別であると。

これは、同じようなことが沖の島にあるんです。特に極洋船舶の船のマストの問題とか、そういうような問題がからんでそういう制限があると、航空法によつてどうにもならないという中で、沖の島の開発はかなり困難性があるということを私なりに理解しておつたわけでございませうけれども、実際この点について間違ひがあるかどうかは別としても、いままでもそういうことがありますので、そういうものをひとつ含んで調査されまして、青年会議所の人たちが若さと情熱をもつて取り組んでゐるものに、いざやろうという段階になつて、これはだめだよということになつたんではあまりにもそういう若人の夢というんですか、一蹴するやうな面があるので、ひとつよく話し合いをして納得のいくやうな形の中でもってやはりこれを対処してもらいたい。

特に、この城山城の問題についても、いま聞いたことは商工会議所の前任の会頭でもあつたわけでございしますから、商工会議

所の会長さんを中心にして、商工会議所の中に事務所を持って、商工会議所がかなり中心的にやっているとございますから、ひとつ市長さんとしても、この運動がエスカレートしていった署名が集まったから、これによってどうこうという、市の方におつけられて、いま私の質問に対して市長が答えたようになかったりも困るんではないかというふうに思いますので、そこらへんについては市長さんがかねがね申しておりますところの話合いの政治というような形の中で商工会議所とも話し合う、夜を徹しても話し合える機会もあると思いますので、ひとつそこらへんについてよく話し合せて、いまの署名が今後集まった時点で、市の方の考え方と、集めて促進している方との対立、溝が起きないように話し合いをお願いしたいということを要望したいと思うわけでございます。そうしてこの二点について終りたいと思います。

三番目には、今度雇用創出の法案が通ったわけでございますけれども、この法律によりますると、第三条の二項に各市町村に對して交付する臨時創出交付金の額は、各年度三千円に該当市町村の人口を乗じて得た額とするということになつてゐるわけです。これにつきまして、先般私、自治省の役人の方とお話したんですけれども、この雇用創出事業については福祉であれ、一般公共事業であれ、内容はかまわない。ただ雇用を創出するということが結びついておればいいと、この際それではということでもって託児所の定数をふやすとか、幼稚園の定数をふやすことも入るかと言つたら、入ると、雇用の確保になるから入ると。それから出たのは地積の整理をするのには非常に経費がかかると、市の地積

を整理するために多くの十人なり、二十人の職員を入れてやるという、こういうようなこともできると。これは上田の市會議員からの質問でもって、それも結構でしょうと。郵便番号についても相当金がかかるから、この際そういうようなものでもって大量の人をやってもいいんではないか。ただし、三年の期限立法であるからということ言われておたわけでございます。

これにつきましては、職業安定法の十二条、職業安定審議会において、雇用が創出できるという答申を得てやるということですから、館山市には職業安定法十二条に基づくところの職業安定審議会の設置はなされておられませんから、これを設置することによってできると。そうすると、一人三千円ですから、館山市は五万七千人といつても一億七千万円の交付税がくるわけでございます。この事業をやるかやらないかについては非常に私はいまの館山市の財政事情の中からいって大変なことだろうと思つております。先般来の議會でもって地方交付税をめぐつていろいろの論議がなされておりましたけれども、財政需要基準額によつてきまつて人員云々と関係ないとかいうことがありましたけれどもこの雇用創出法案の適用を受けるならば、地方交付税の中でもって無条件でもって一億七千万円が単年度に支給される。こういう法律ですから、この面については十分活用して、ない財源の中でもって一億七千万円の有効の使い道を考えられてはいいいんではないかと思いますが、この点についてはいかがでしょうか。

○市長（半沢良一君）　ただいま、辻田議員から懇切丁寧な法案の説明がございまして、私も実はその法案の内容自体もよく存じておりませんので、先般ども御答弁いたしましたように、いずれ

その法案を研究をいたしまして、しかるべく対処をいたしたいと考えているわけですが、御指摘のとほりの法案でございますならば、大変時宜を得た法律でございますので、十分活用をすること考えたいと思います。

〇一五番（辻田 実君） 職業安定政策の確立についてもう一点お伺いしたいと思うわけでございますけれども、現在館山の労働事情については決していい状況にあるとは言えないわけでございます。と申しますのは、この四月に館山の職業安定所において雇用保険をもらってある方が五百三十一名ございます。これはこ半年間の平均値が五百から六百の間を往復してあるようでございます。そのため、御承知かと思いますが、通に一べんないし二べんあそこに五百何人かの人が受給に来て入りきれないで、あそこらへんの道の上だとかいっばいいて異常な状況を呈しておるわけでございます。この点についてどのように考えるか。

この雇用状況については、館山市においてもなかなか解決されないんじゃないか、特に館山市の場合には千葉とか、東京に勤めて、そこで失業して帰って来て、失業保険だけこっちでもらうというケースも最近特にふえている。こういうことがあって困っておると、こういうことでございます。

そこで先般、職安の所長とも話したんですけども、あそこは手狭で困ると、こういうことでもって関係機関に対して職安を何とかもっと広い場所にしてもらえないかと、労働省の示す基準の約半分しかないそうです。土地、その他がもう倍ぐらいの土地がないと収容しきれない。こうした失業者の雇用保険をやったり、雇用の求人なり、求職者の処理をするにはとても狭いと、こうい

うことであったわけでございます。

その中で、一つ聞き捨てならないことを聞いたのは鴨川市の方でもって、安房、鴨川は管内ですから、鴨川からこっちに求職、求人に来るのは容易でないということでもって、ぜひ鴨川に持って来てもらいたい。そうすれば土地も提供しますというように申し出もあるのだけれども、これは話として聞いて置くけれども、これは同じ管内だからどこに持って行ってもいいということですが、けれども、場合によったら館山市にいい土地がないかどうかというところで私も相談かけられたわけでございますけれども、私はこの話がそういうようなことでもって推移してまいりましたものを職安というものが向こうに行くということになりますと、館山の中小企業者が求人にも一々鴨川の方に行かなければならないという逆作用が出てくる。

水産試験場が千倉に移り、農業経営短期大学が東金に移るということで、館山のいいところは行政のそうした中心が館山に集まっておるといふようなことが館山の大きな根幹になっておる中で、もって、職安は鴨川に行き、農業経営短期大学が東金に行っちゃい、水産試験場は行っちゃい、その他測候所もだめになるようでございますけれども、何とか陳情して館山だけ残そうということとて、規模は縮小されながらも、富崎はつぶれても館山だけ残ったというようなことで、測候所もなくなつたらもう一つ大きな目玉がなくなるといふような状況になつたんでは大変なことだろうというふうに思うわけでございまして、一つは、雇用の安定確保を図る意味から、もうちょっと職安に対して協力する姿勢はないか、特に職安法の第十一条には市町村長の職務というようになこと

につきまして、職業のあつせんまたは求職者に対するところの業務に對して職業安定所と協力しながらこれを推進しなければならぬといふことが職業安定所法第十一条に明記されておるわけでございますから、そうした面について職安と一体となつて地方自治体が雇用の安定に努めることは法律の精神にも合致するといふふうに思われるわけでございますけれども、この点について職安の所長等も地所の問題等については市長さんの方に申し入れをするとか、したとかいふことも聞いておつたわけでございますが、職安の移転問題等についてはどのようなお考えでおるのか、この点について御質問する次第でございます。

○市長（半沢良一君） 職業安定所の庁舎の問題につきましては、庁舎用地として駐車場を含めて千五百平米程度を現在の館山高校敷地内という御希望がございましたが、館高跡地の利用につきましてはある程度の、しっかりしたものはまとまつておりませんけれども、ある程度の利用計画もありますので、その利用計画から見ますと、ちょっと支障を来しますので、お断りをいたしましたわけでございます。もちろん今後とも御希望が、職業安定所からの土地の依頼、あつせん依頼等がございますれば、できる限りの努力をいたしましてあつせんをいたしたい。そんなふうに考えているわけでございます。

○一五番（辻田 実君） それから、最後の問題に関連するわけでございますけれども、農業経営短期大学の移転につきましては、非常に政治的な問題もあるようでございます。このことにつきましては、諸願書等も県議会に出されておるわけでございますが、県議会の中でも若干問題になっておるようでございますけれども、

も、農業経営短期大学、中堅青年養成所はあくまでも後継者育成といふことが目的になつたものでございますし、農業学園といふようなものは、むしろ技術的なものを教えるといふような性格のもので、この統合される学校等はそれぞれの特徴を持つたものですし、一堂に集めたからいいものではないんじゃないか。こういうような指摘と、それから要するに、この誘致にからんでは東金市長を初め有力な政界人が川上知事に対して誘致運動をしてその結果、強引に東金に持つて行つたといふようなことが言われております。

これについて追及したのは、社会党の佐倉選出の県会議員でございますけれども、農村青年中堅養成所の第一期の卒業生でもつて同窓会の会長もやつておりますけれども、その中でもつて、川上さん、あなたは房州の出身でもつて東金に持つて行つてもいいんですかといふようなことも言われて立ち往生するといふような場面もあつて、いろいろその県議の話を聞いた範囲では、県会の中でも農産委員会ですか、この中においてもあまりにも政治的なことをやり過ぎたのではないかなといふことが取りざたされておるといふようなことで、辻田君あんなにも館山の市会議員でもつて館山ぼやぼやしておつてはいけないうんじやないかといふことでハッパをかけられて、館山にあつたからこそ、この県北からも館山の地を求めてあそこで全寮制の中でもつて勉強してきたと、全寮制ですからあそこで衣食住するし、卒業してもアフターケアが実習という形であそこを中心になされておつて、館山のある面の一つの、農業という一つの核であつたわけでございますが、政治的に向こうに行つたといふことは、何かぼやぼやしていたわけでも



ないでしょうけれども、何か抜かれたという感じが強いわけでございまして、この点については今後交渉して、さらにあの跡地についても十分決まっていようでございます。職業訓練所を持って行ったらいいんではないかということですが、職業訓練所は船形の海岸へ整備したばかりでもって、あそこに持って来て何に使ってもいいという見通しもないままに、現段階においてはあれだけの施設がいま宙に浮いておるといふことを聞いておるといふことを聞いておるわけでございますので、農業経営短期大学以上の一つのものに生かしていくという作業も館山市においては必要ではないか、このように考えるわけでございます。

さらに、そのことは職業安定所と同じように、これは向こうから依頼がないから、土地のあっせんについてこちらから協力できかねるという形で推移して一年、二年たったなら、養成所が向こうに移ると、職安が鴨川に移るのとは事の性質が違うわけでございまして、この点については、私は議会でもって言葉を大にして職安の土地の問題については、向こうから依頼があるとかないということ抜きにして市として当たっていただきたい。

これが、もしやのことで、中堅青年養成所のように鴨川なり、向こうの方で誘致運動が起きているからということでございます。それから、職安が向こうに行ったら、館山の中小企業は大変なことになっちゃうんですから、一大問題になりますので、この点についてはよく検討されて、中小企業の保護という面、さらには雇用状況の安定という面からも職安の施設については考えていただくことを要望して、時間もまいったようでございますので、質問を終わりたいと思います。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、一五番議員君の質問を終わります。以上で、通告者による一般質問を終わります。

散

会 午後四時三十八分散会

○議長（吉田勇治郎君） 本日の会議はこれにて散会いたします。次会は、明六月二十二日開会とし、その議事は各議案の審議といたします。

○本日の会議に付した事件  
一、行政一般通告質問

